

山梨県民の生活状況に関する調査

令和6年12月

山梨県 県民生活部 県民生活総務課



■ 調査の概要

1. 調査目的

山梨県にお住まいの幅広い世代を対象に、性別や年齢ごとに日常の行動や生活状況を把握し、県民の皆様がどのような困難な環境や境遇に置かれても、そこから抜けだし、誰一人取り残されない社会の実現をめざし、今後の施策立案の参考とする。

2. 調査項目

- | | | |
|-----------------------|------------------|-------------------------------|
| (1) 回答者の属性（性別、年齢、居住地） | (2) 同居者の状況 | (3) 就業（学）の状況 |
| (4) 就業経験 | (5) 普段の過ごし方 | (6) 現在の外出状況・経過年数 |
| (7) 現在の外出状況になった理由 | (8) 家族以外の者との会話状況 | (9) 社会生活、日常生活での困難経験 |
| (10) 現在の悩み | (11) 希望する相談窓口 | (12) 悩みごとの解決にあたり御意見等（自由記載） など |

3. 調査方法

- | | |
|--|-------------------------|
| (1) 調査対象：山梨県内に住民票がある満15歳から満69歳までの個人（R5.10.1時点） | |
| (2) 調査人数：4,000人 | (3) 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出 |
| (4) 調査方法：Web（インターネット）による回答 | (5) 調査期間：令和6年2月1日～2月29日 |

4. 回収結果

- (1) 回収数（率）：1,665人（41.6%）

5. 定義

○ひきこもり状態にある者

令和4年度に実施した、国の調査（こども・若者の意識と生活に関する調査）結果における抽出条件に準じて抽出。以下の全てを満たす者を、「ひきこもり状態にある者」と推定した（R2県調査と同じ呼称を利用）。

- ・ 現在の仕事（単一選択）で、学生・生徒を選択していないこと。
- ・ 就業経験（単一選択）で、「現在、就業している」を選択していないこと。
- ・ 普段の外出状況が、「趣味の用事のときだけ外出する」、「近所のコンビニなど買い物には出かける」、「自室からは出るが、家から外には出ない」、「自室からほとんどでない」のいずれかを選択していること。
- ・ 普段の外出状況が、現在の状況となった期間が、6か月以上であること。
- ・ 普段の外出状況となった理由で、特に理由がない場合には、最近6か月間の会話の状況で「良く会話をした」又は「ときどき会話をした」を選択していないこと。

○調査の名称

- ・ 今回調査：本調査

- ・ R4国調査：令和4年度に、内閣府が実施した「こども・若者の意識と生活に関する調査」（令和5年3月公表）

※対象者：10歳～39歳までの男女20,000人、40歳～69歳の男女10,000人を、層化二段階作為抽出法で抽出。

※調査方法：郵送法（オンライン回答併用）

※有効回答数：13,769人

※該当者：144人（15歳～39歳）、155人（40歳～69歳）が広義のひきこもり群

広義のひきこもり群

「普段どのくらい外出しますか」という質問に対し、「趣味の用事るときだけ外出する」、「近所のコンビニなど買い物には出かける」、「自室からは出るが、家から外には出ない」、「自室からほとんど出ない」のいずれかであると回答し、かつ、その状態となって6か月以上である回答をした者。ただし、就業中である旨の回答をしている者などを除く。

- ・ R2県調査：令和2年度に、県福祉保健部が実施した「ひきこもりに関する調査」（令和3年1月公表）

※対象者：「ひきこもり状態にある者」

概ね15歳以上で、「社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の者」、又は「社会的参加ができない状態が6か月以上続いているが、時々買い物などで外出することがある者（重度の障害等で外出できない者を除く）」

※調査方法：県内の民生委員・児童委員（2,282人）が、担当地区における当事者等の情報を調査票に記入。

※有効回答数：1,928人の民生委員・児童委員から回答。

※該当者：615人がひきこもり状態にある者

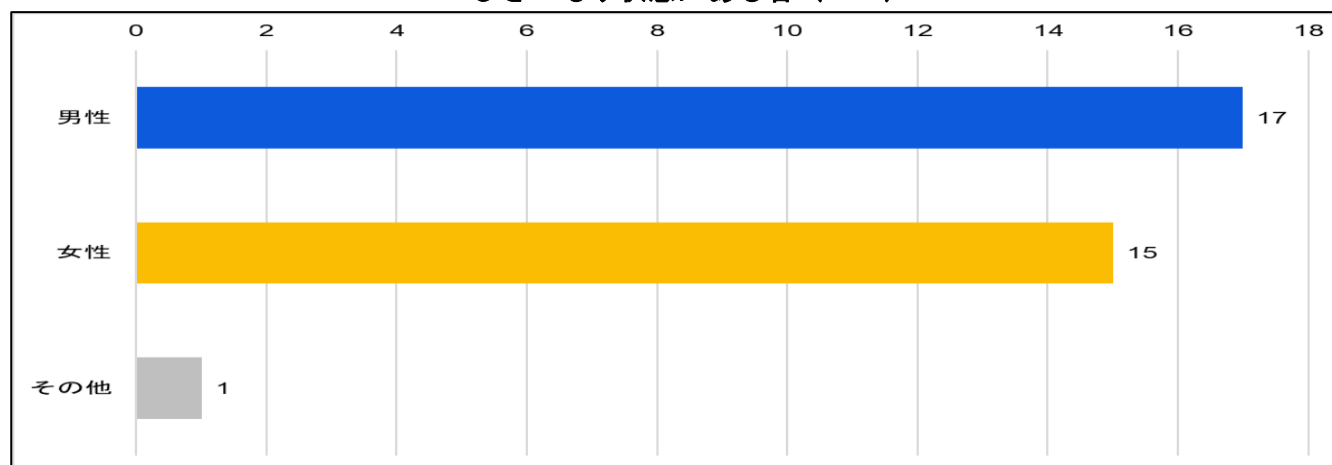
なお、この3つの調査結果を比較するため、R4国調査、R2県調査における公表数値を当課において集計し、推計値として引用した項目がある。また、比較の際、39歳以下を「若年層」、40歳以上を「中高年齢層」と表記した箇所がある。

■ 回答者の属性（性別） ※単一回答（単位：人）

・回答者全体に占める、ひきこもり状態にある者の割合は、男性17名（2.3%）、女性15名（1.7%）、その他1名（0.1%）、合計で33名（2.0%）となった。また、男性が全体の51.5%、女性が45.5%と、ほぼ同率となった。

※参考試算：R5.3内閣府公表「こども・若者の意識と生活に関する調査結果」では、2.4%（15歳～69歳）

ひきこもり状態にある者（n=33）

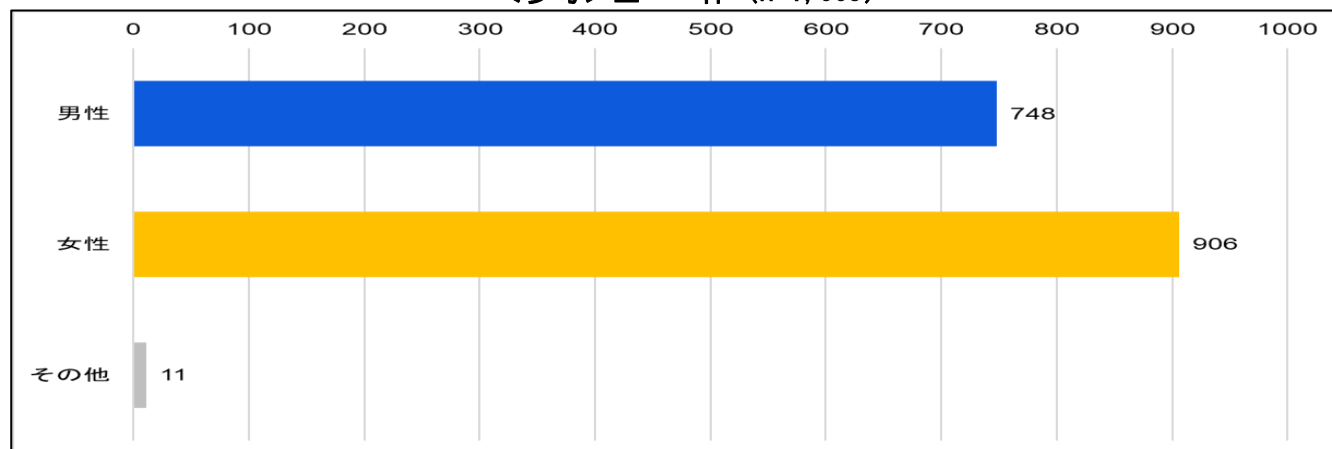


＜参考＞ひきこもり状態にある者

- ・国の調査では、生産年齢人口（15～64歳）で推計値を発表：全国で146万人
- ・今回の調査結果を、同じく生産年齢人口で推計すると、本県では約9,000人となる。（令和2年国勢調査結果を利用）

※左記の33人のうち、生産年齢人口に該当するのは30人。

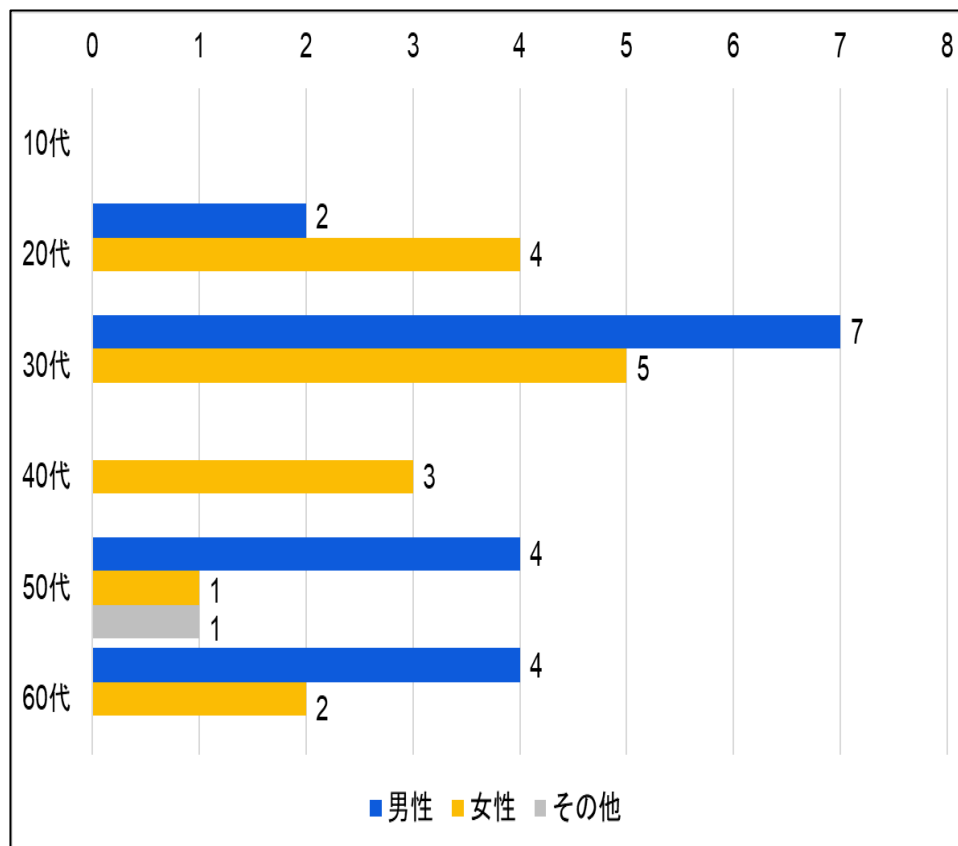
＜参考＞全 体（n=1,665）



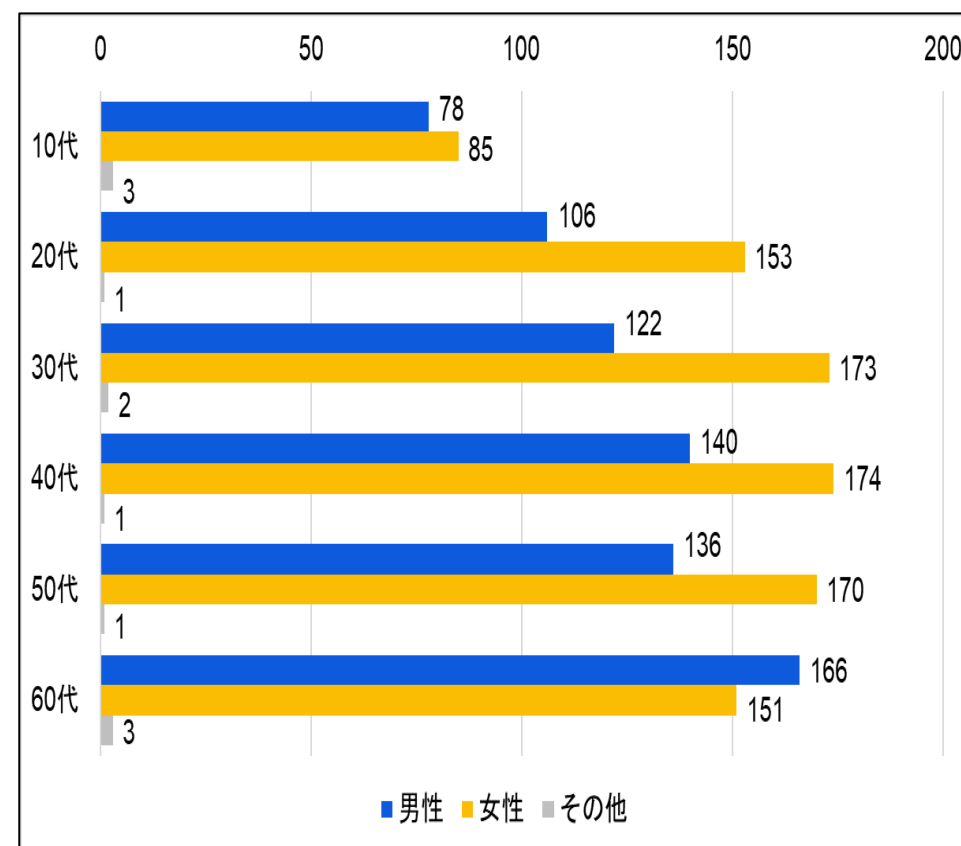
■ 回答者の属性（年代） ※単一回答（単位：人）

・男女ともに30代が最も多く、合計で12人（36.4%）となった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）

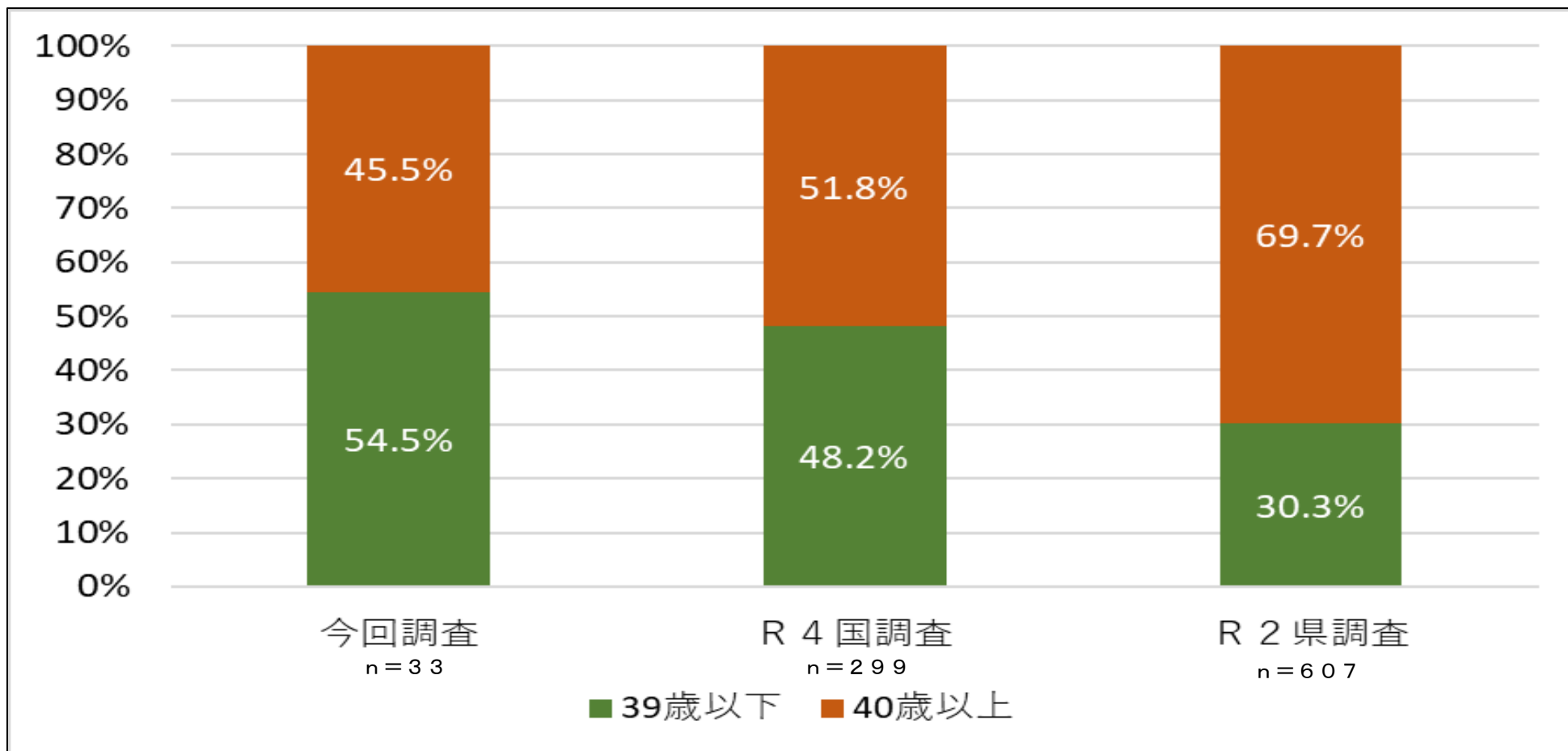


<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



（参考）他調査との比較（年代層（若年層・中高年齢層）別の割合比較）（単位：パーセント）

・ R 4 国調査と、概ね同じ傾向となった。



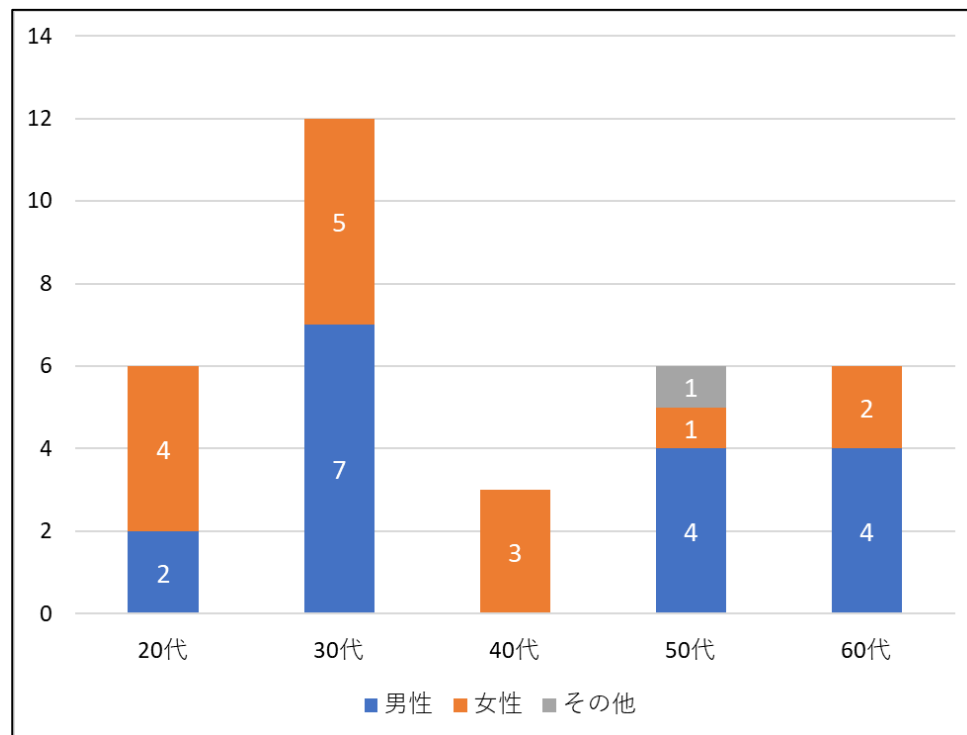
※ R 4 国調査は、公表数値を集計して当課で推計。

※ R 2 県調査は、調査対象の年齢に上限なし。また、年代無回答者 8 名を除く。

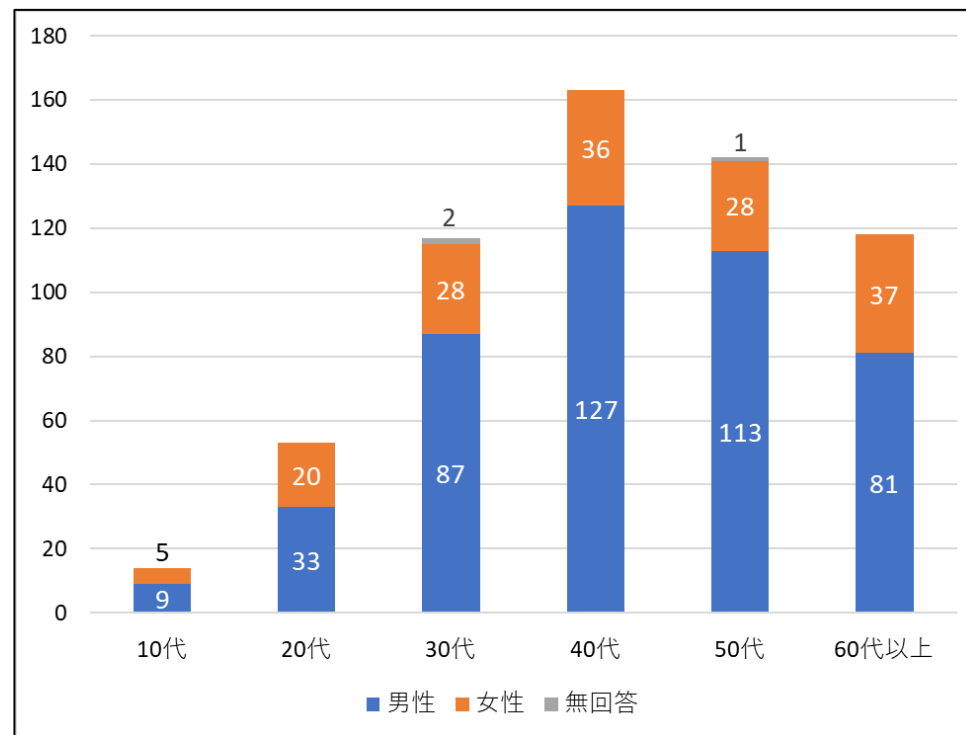
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: 人)

・今回調査では、30代が多く、その他の年代では概ね同じとなった。

<今回調査 (n=17(男), 15(女), 1(その他))>



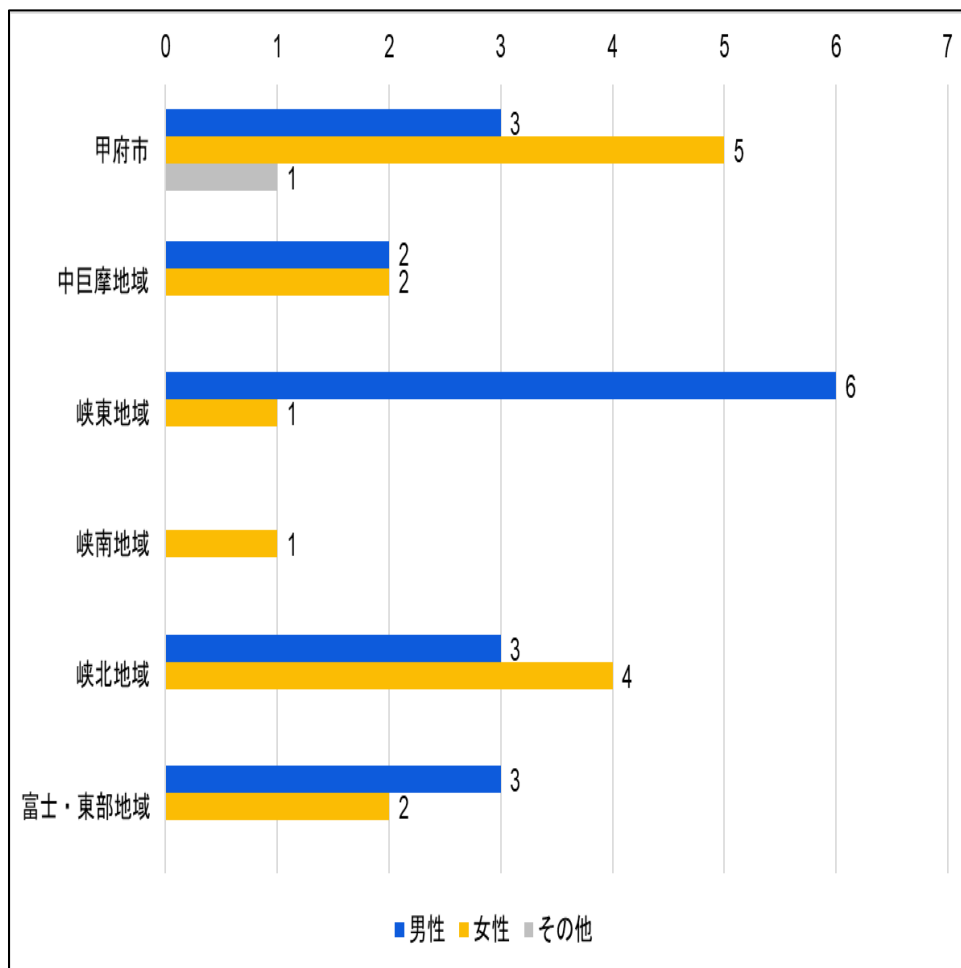
<R2県調査 (n=450(男), 154(女), 3(その他))>



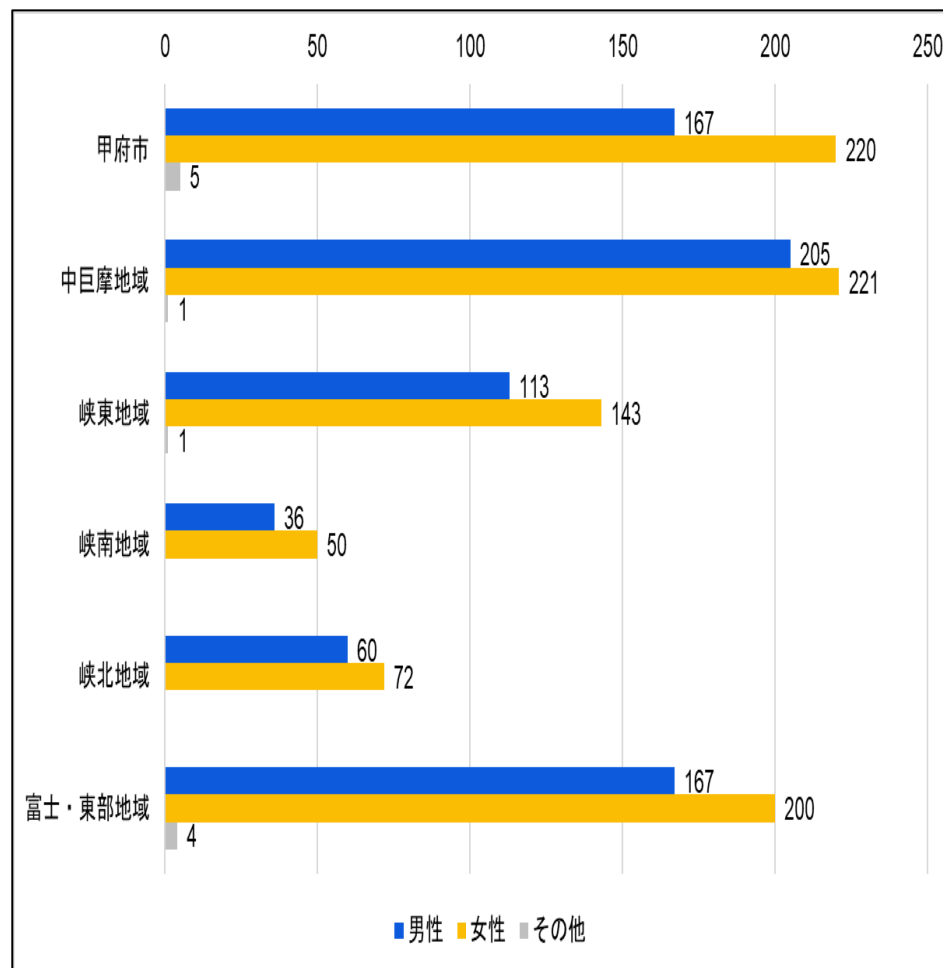
※年代無回答者 (8人) を除く。

■ 回答者の属性（居住地） ※単一回答（単位：人）

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



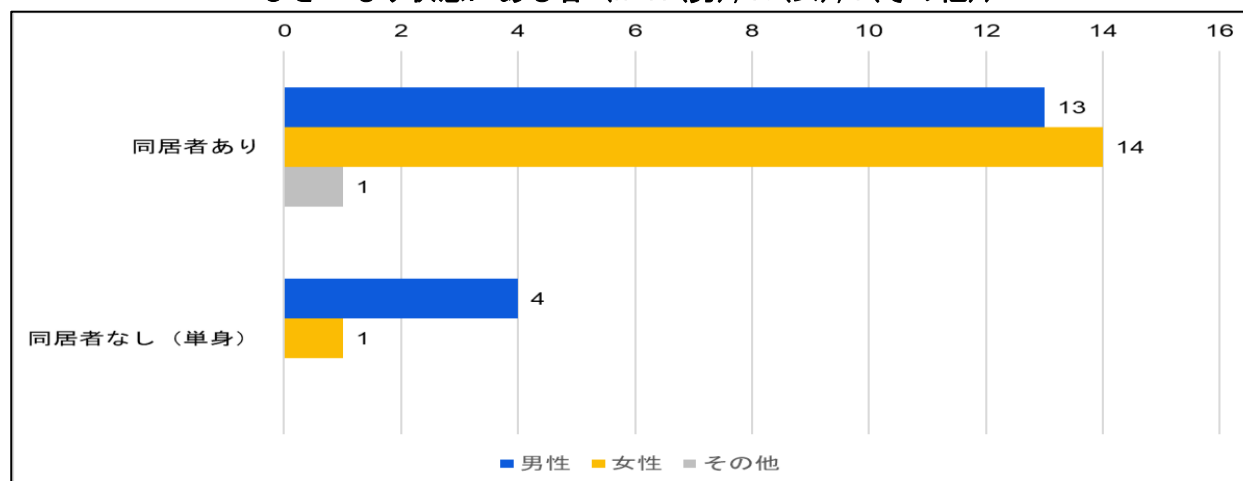
<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



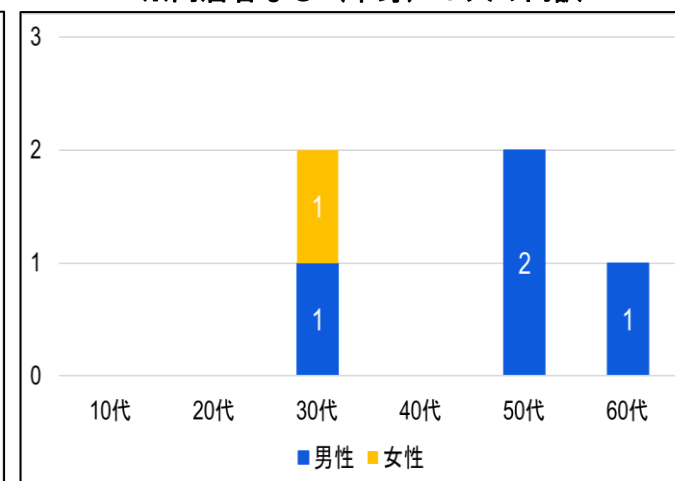
同居者の状況（同居者の有無） ※単一回答（単位：人）

・ 単身者の割合は、15.2%（5名）であり、全体での割合7.0%（117人）と比べると、約2倍となった。

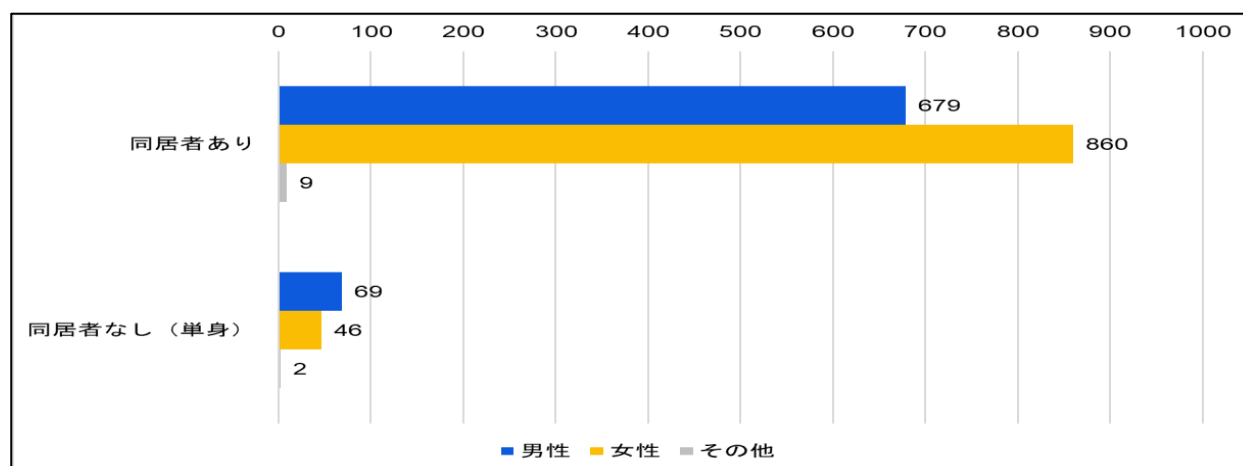
ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



※同居者なし（単身）5人の内訳



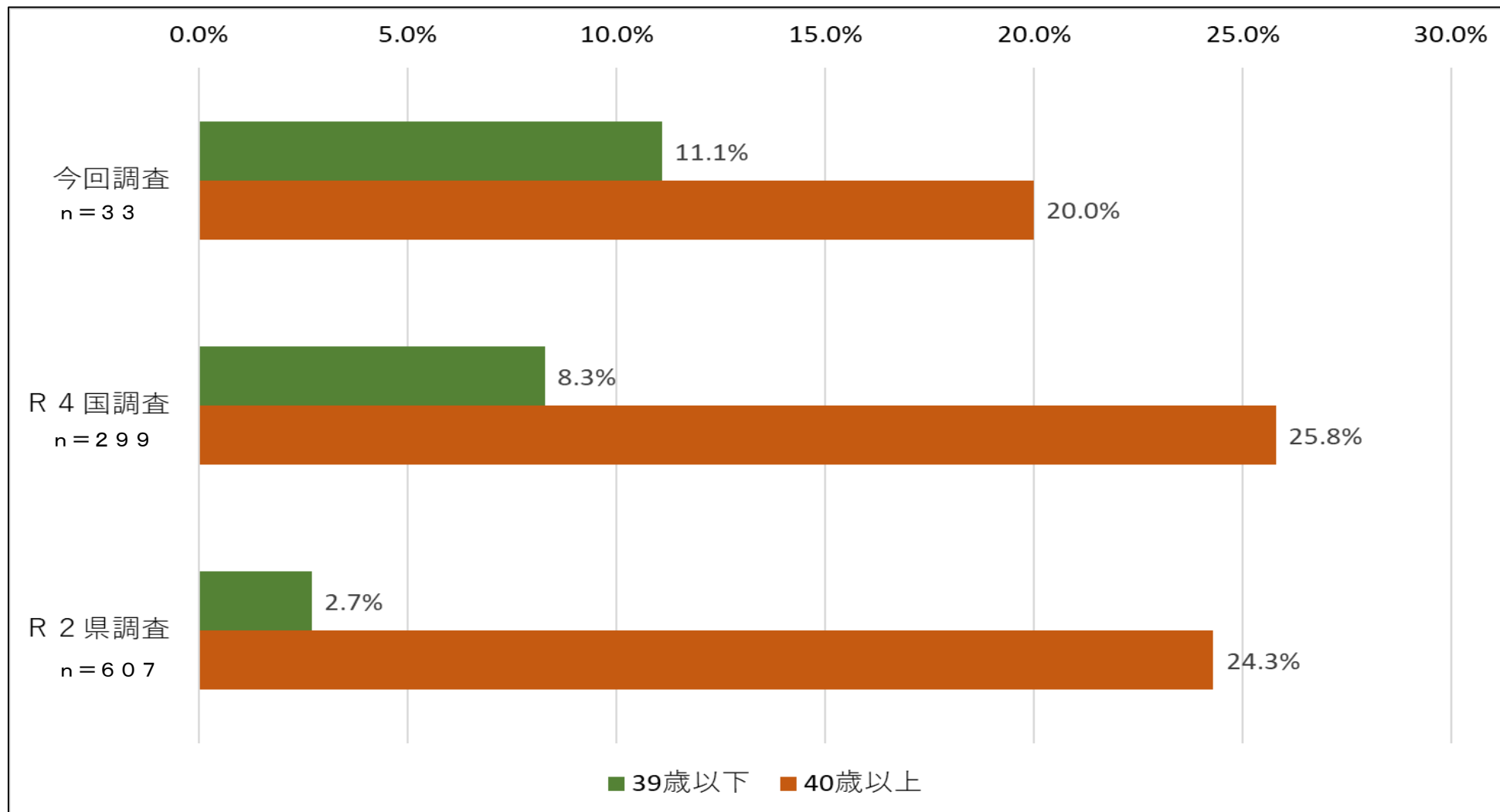
<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

(同居者なし (単身) の状況)

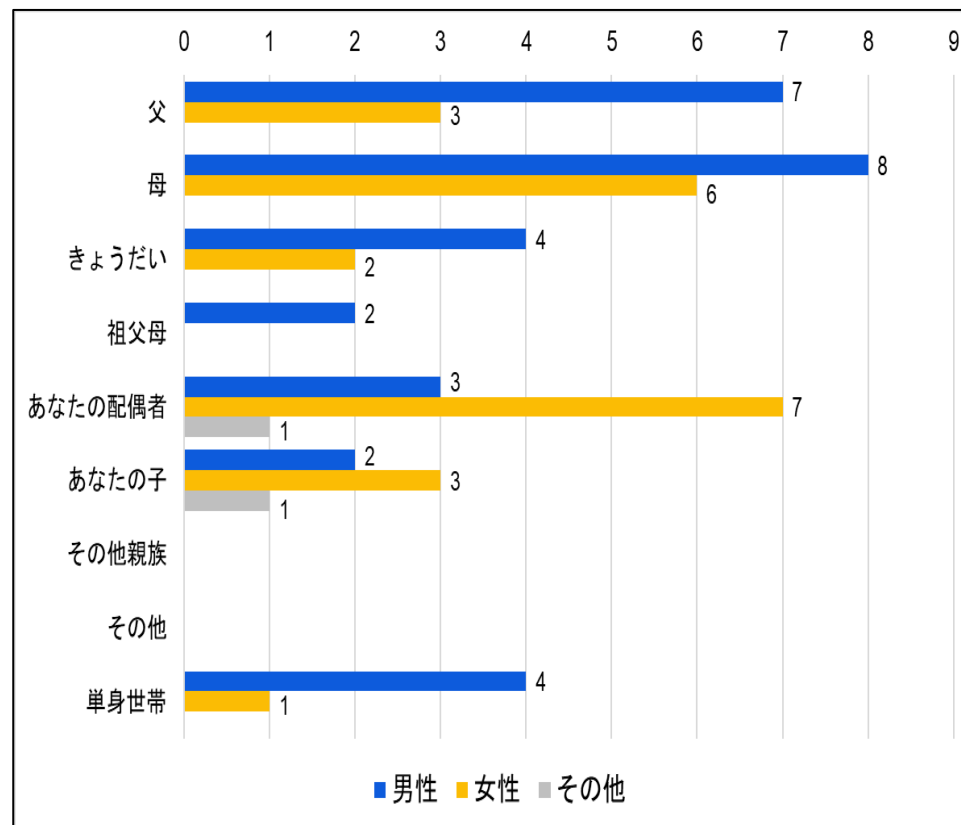
・ R 4 国調査と、概ね同じ傾向となった。



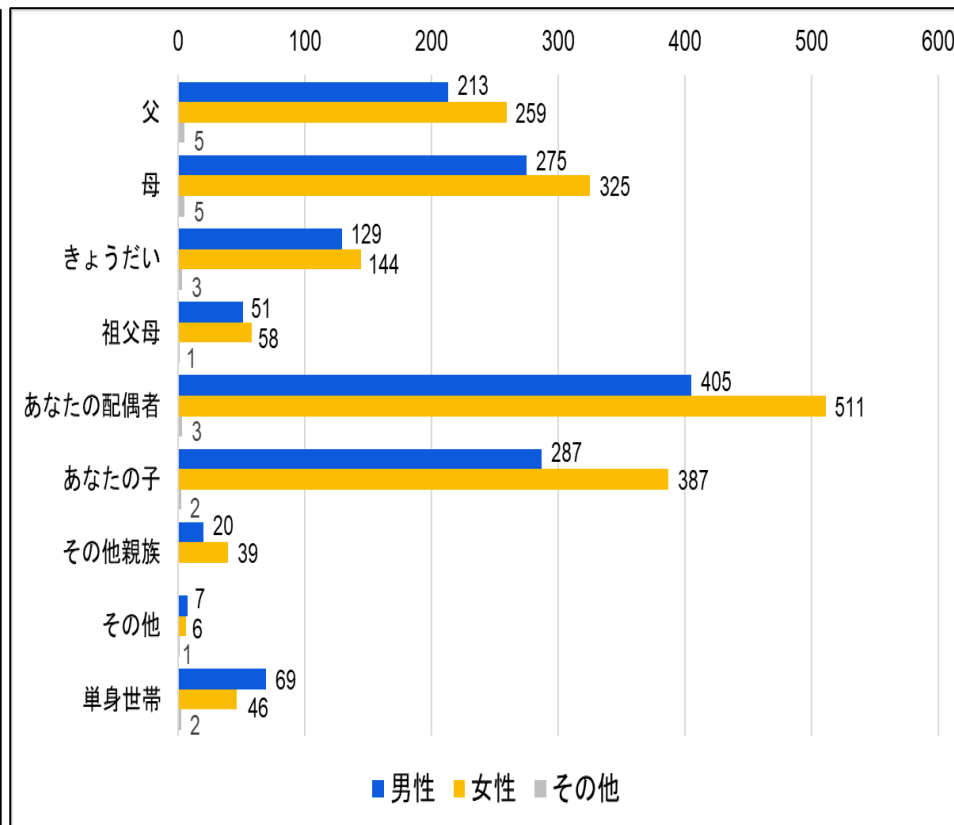
同居者の状況（具体的な同居者） ※複数回答（単位：人）

・男性では、「父」・「母」との同居が多く、女性では、「配偶者」との同居が多い。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）

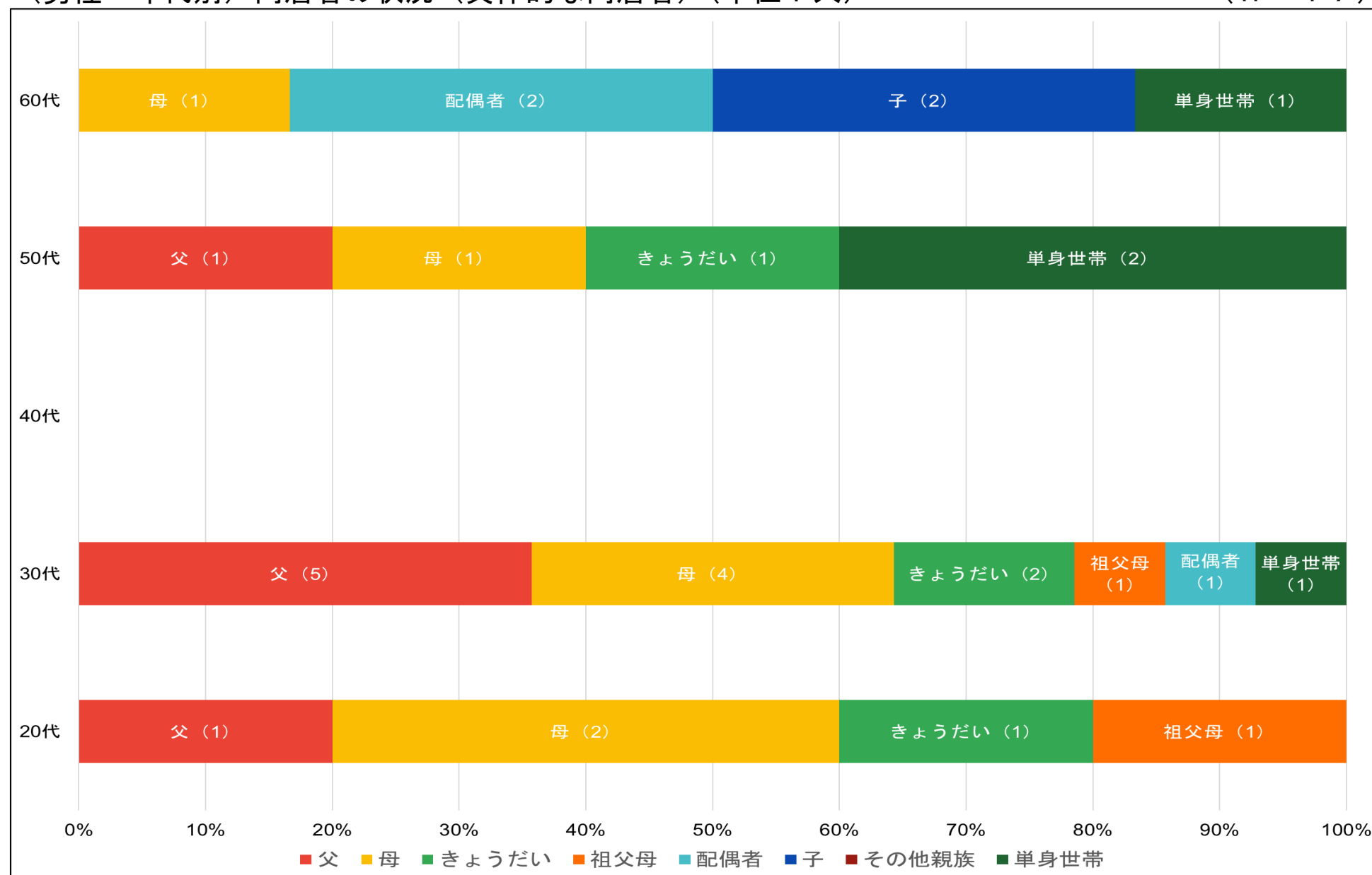


<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



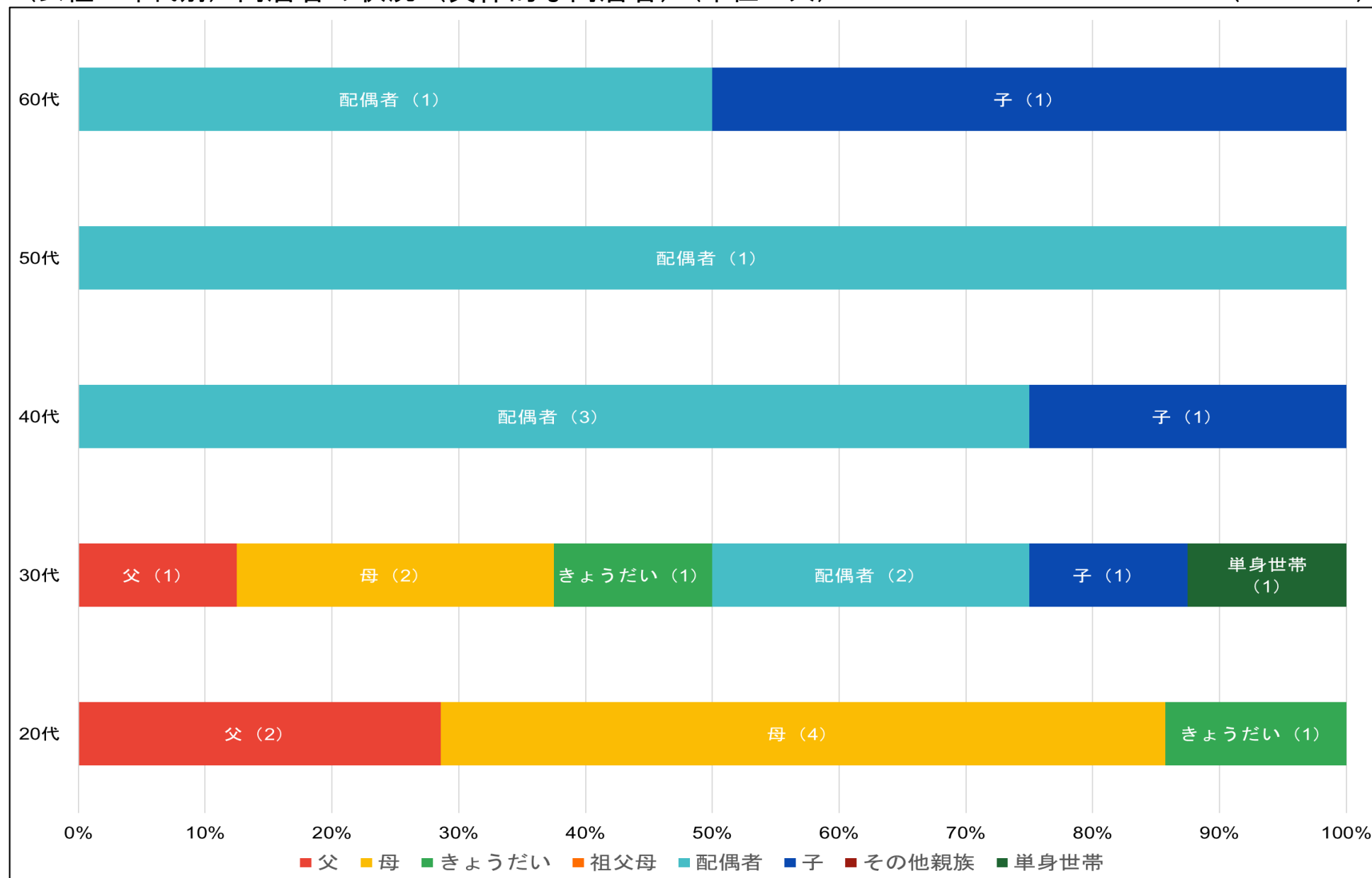
(男性・年代別) 同居者の状況 (具体的な同居者) (単位：人)

(n = 17)



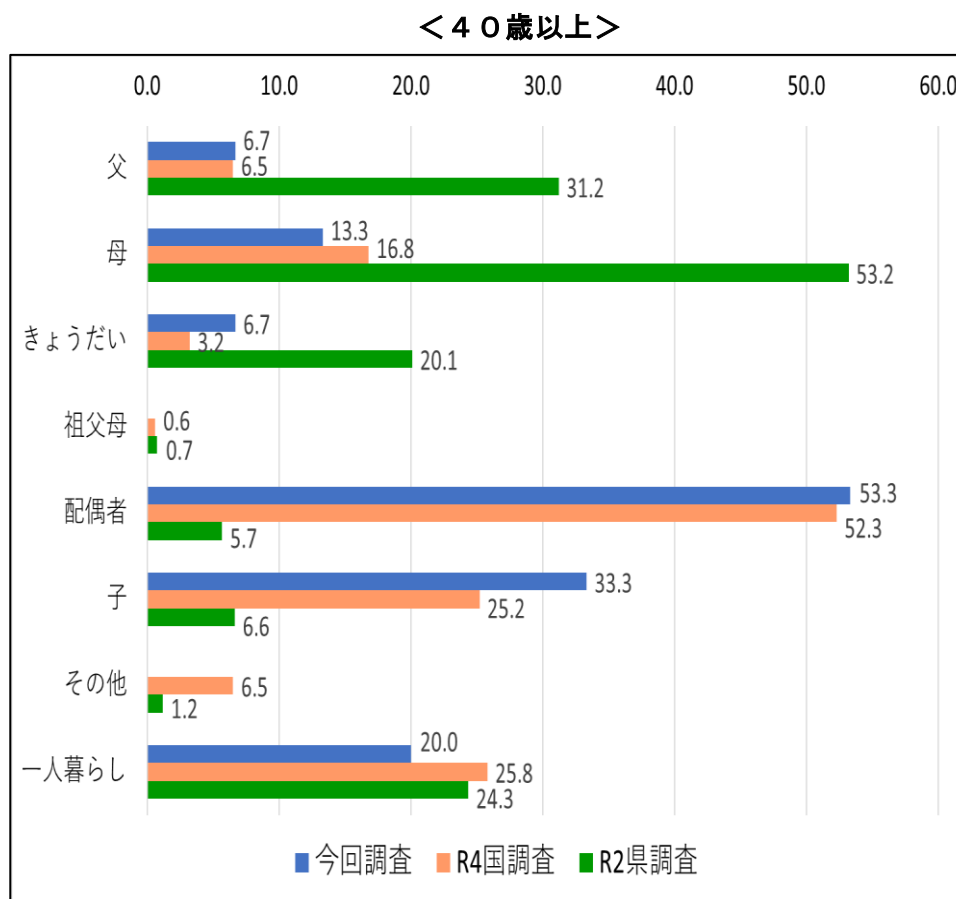
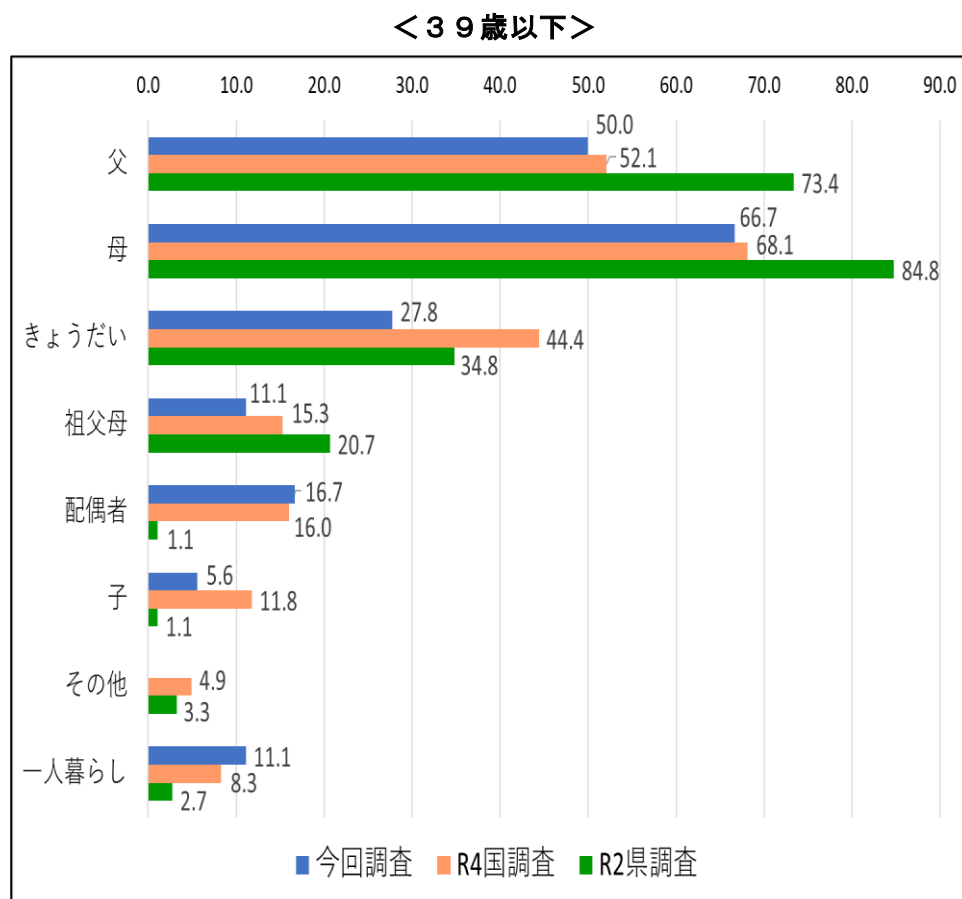
(女性・年代別) 同居者の状況 (具体的な同居者) (単位: 人)

(n = 15)



(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

・ R4国調査と、概ね同じ傾向となった。



※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

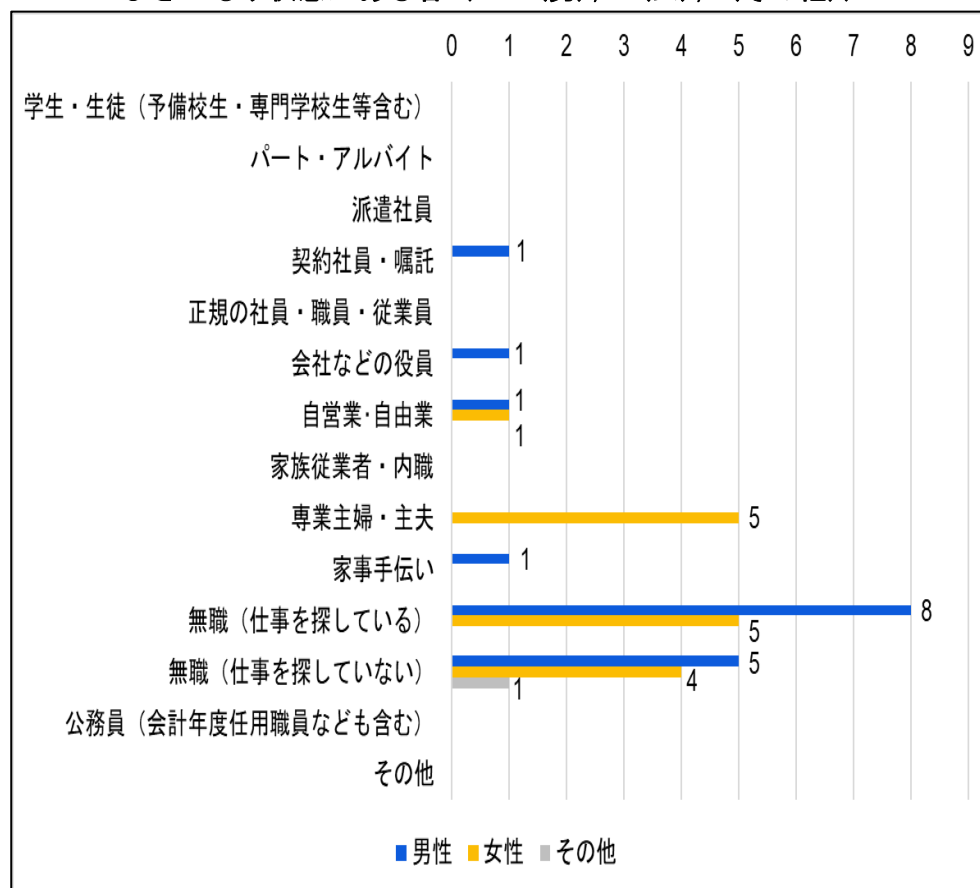
※R4国調査の「その他」は、「その他の親族」、「その他（ホームステイをしている人など）」を合算した試算値（39歳以下、40歳以上ともに）。

※R2県調査では、年代無回答者（8人）を除く。

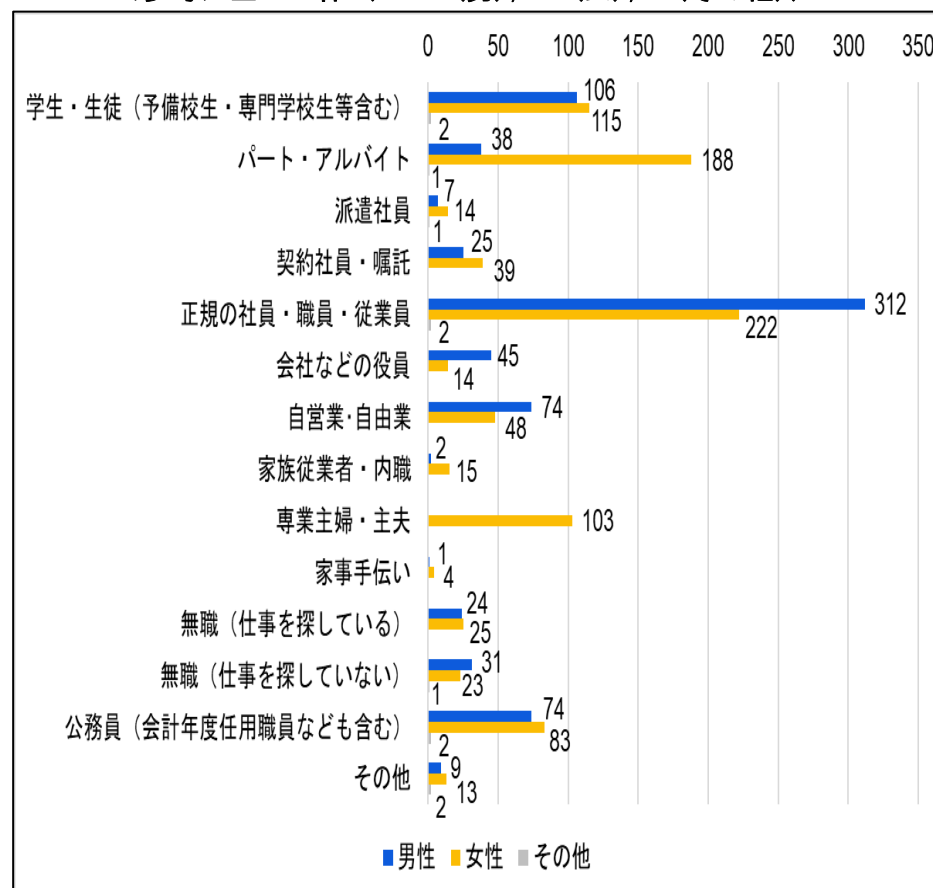
■ 就業（学）の状況 ※単一回答（単位：人）

- ・男女ともに「無職」が最も多く、合計で23人（69.7％）となった。
- ・無職のうち、「仕事を探している」を選択した者は、男女ともに最も多く、合計で13人（39.3％）となった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）

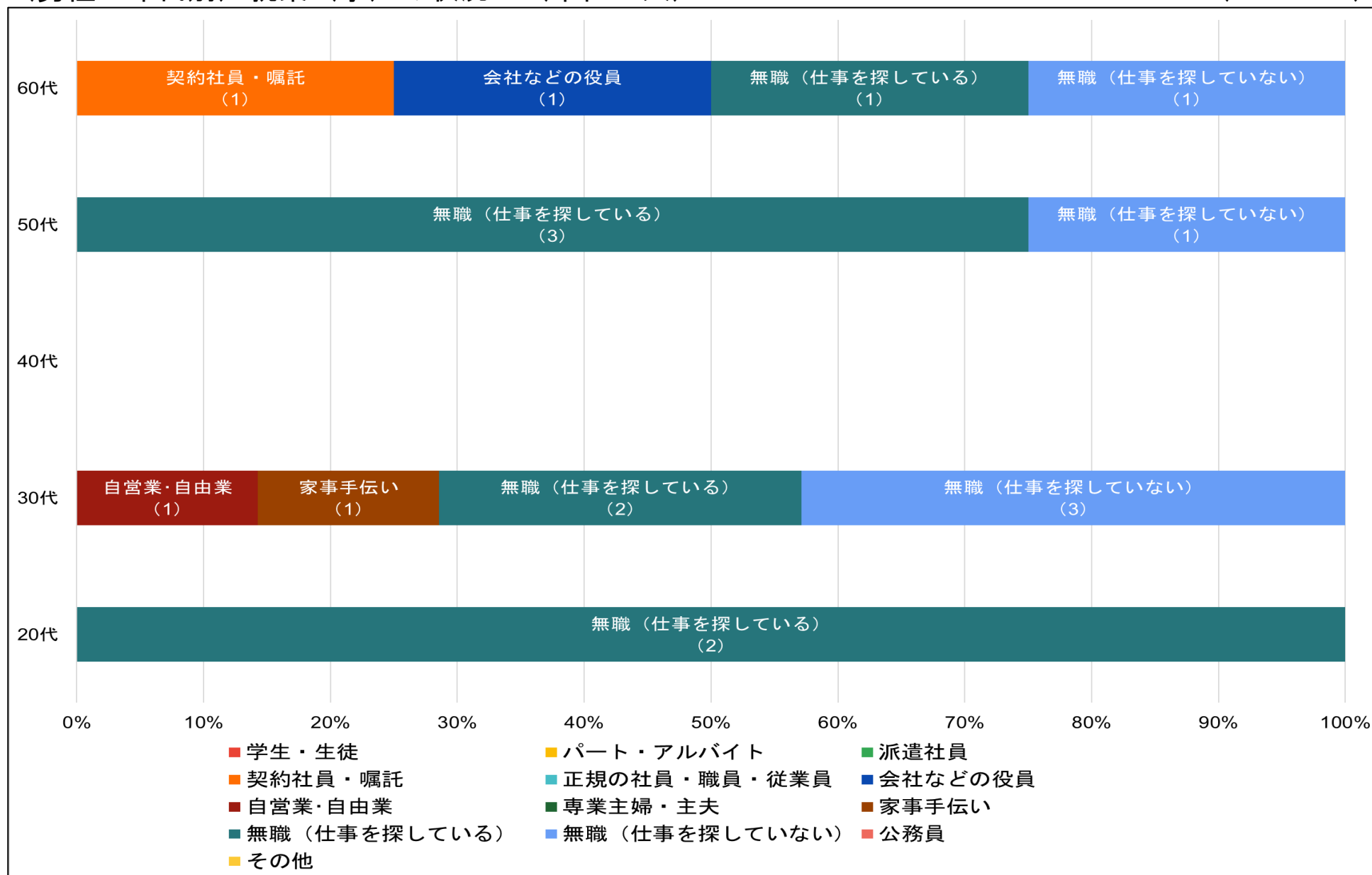


<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



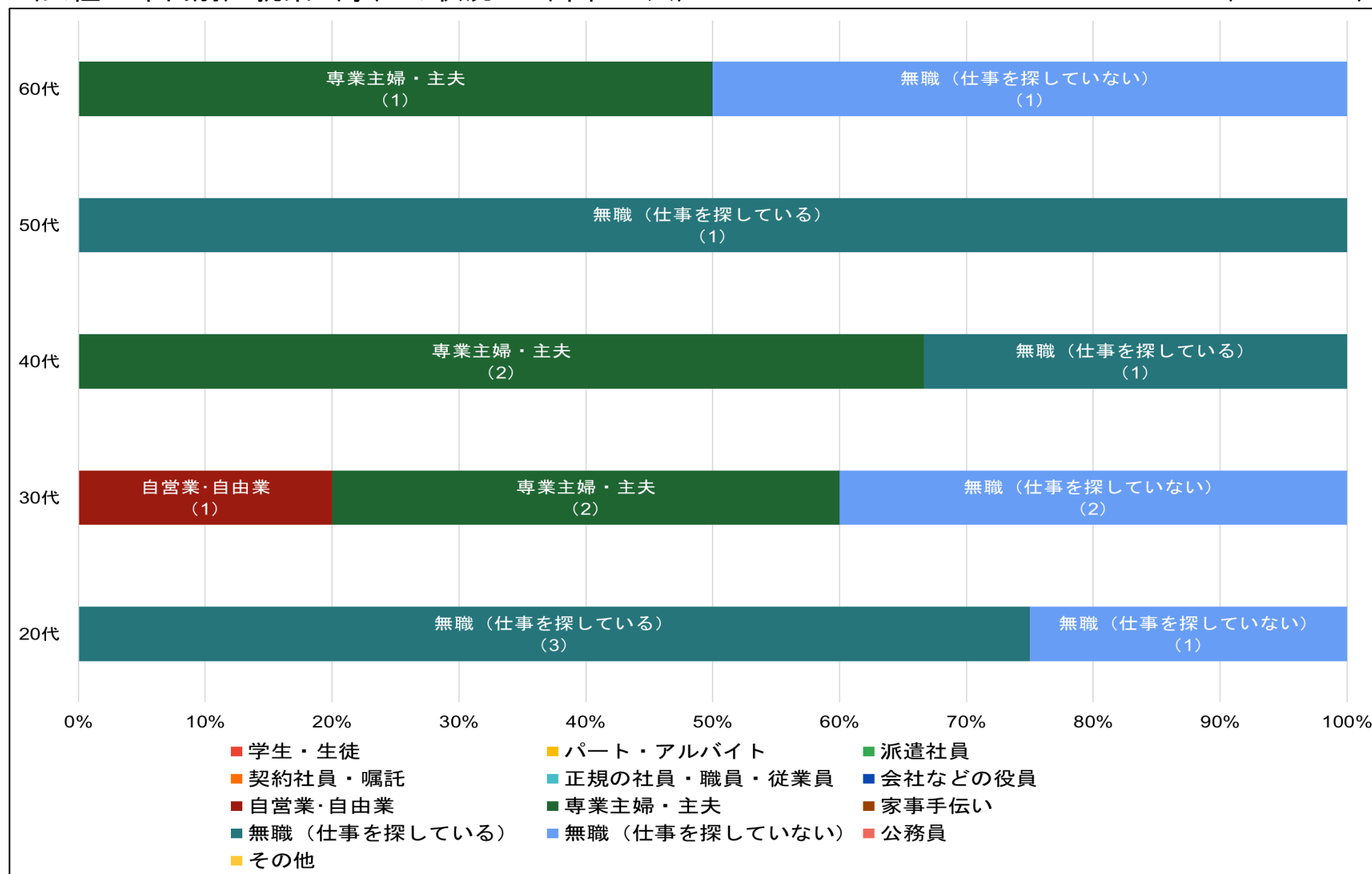
(男性・年代別) 就業 (学) の状況 (単位: 人)

(n = 17)



(女性・年代別) 就業 (学) の状況 (単位: 人)

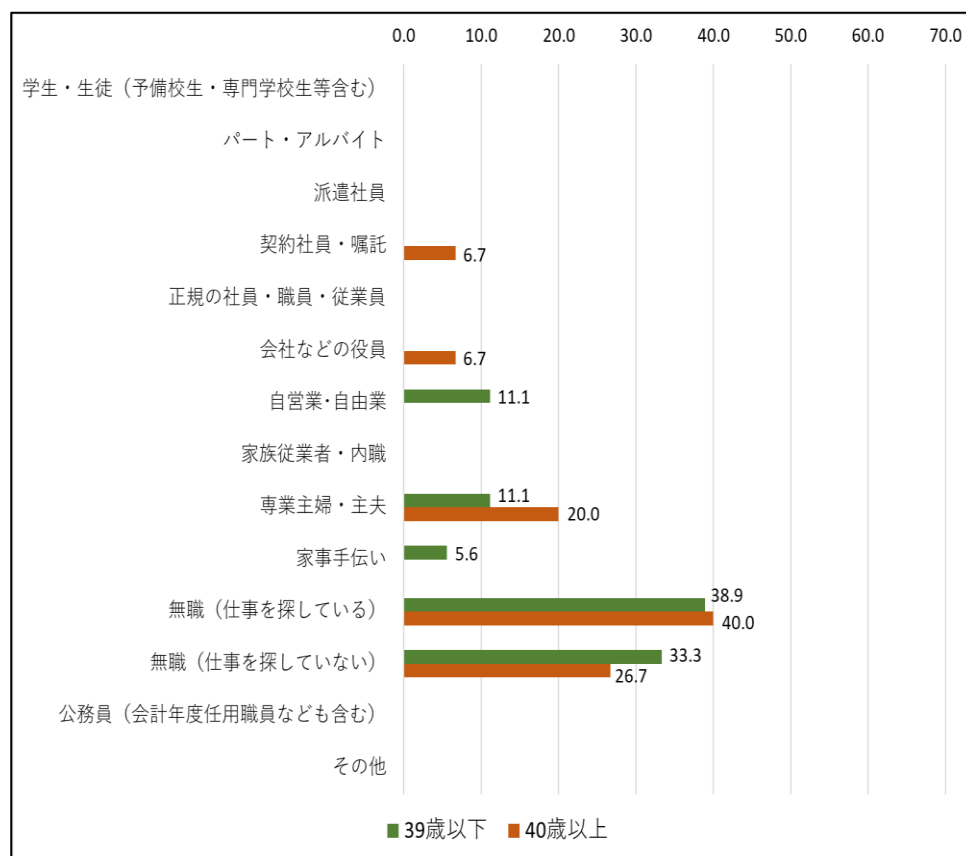
(n = 15)



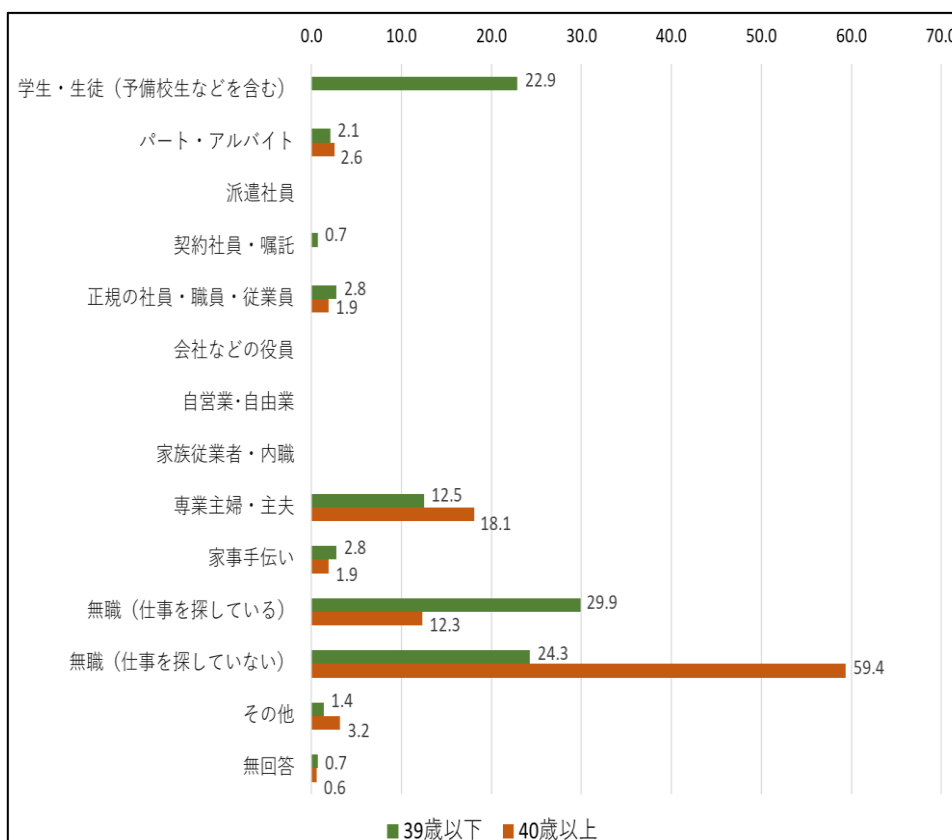
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

- ・ R4国調査と、概ね同じ傾向となった。
- ・ 40歳以上では、R4国調査よりも、無職のうち「仕事を探していない」が少なく、「仕事を探している」が多い。

<今回調査> (n=18 (39歳以下)、15 (40歳以上))



<R4国調査> (n=144 (39歳以下)、155 (40歳以上))

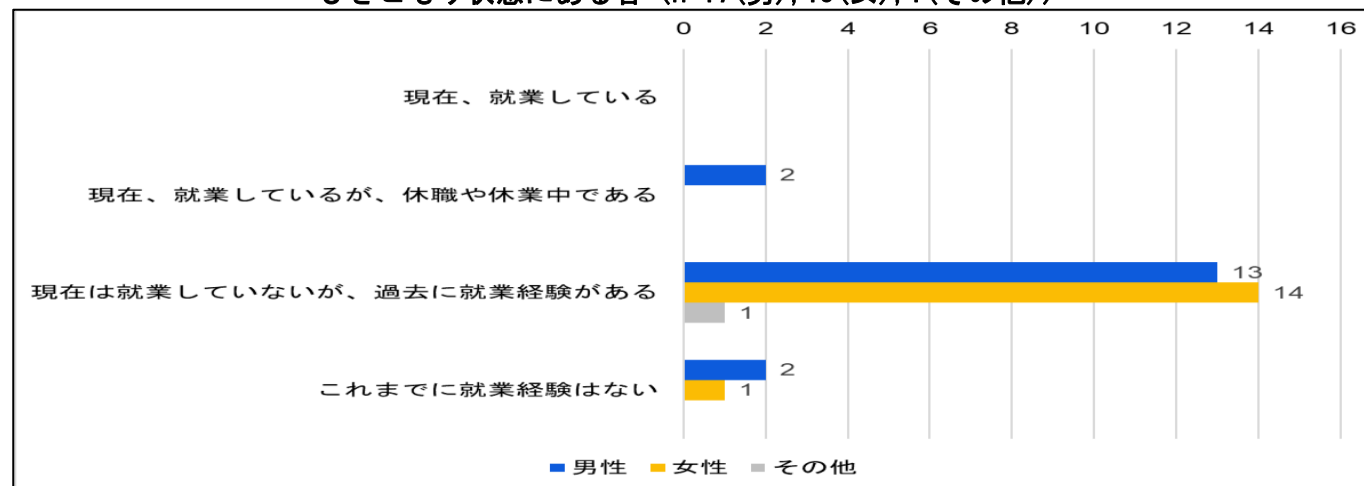


※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。
 ※今回調査での、「公務員 (会計年度任用職員なども含む)」は、独自の選択肢。
 ※今回調査に、無回答者なし。

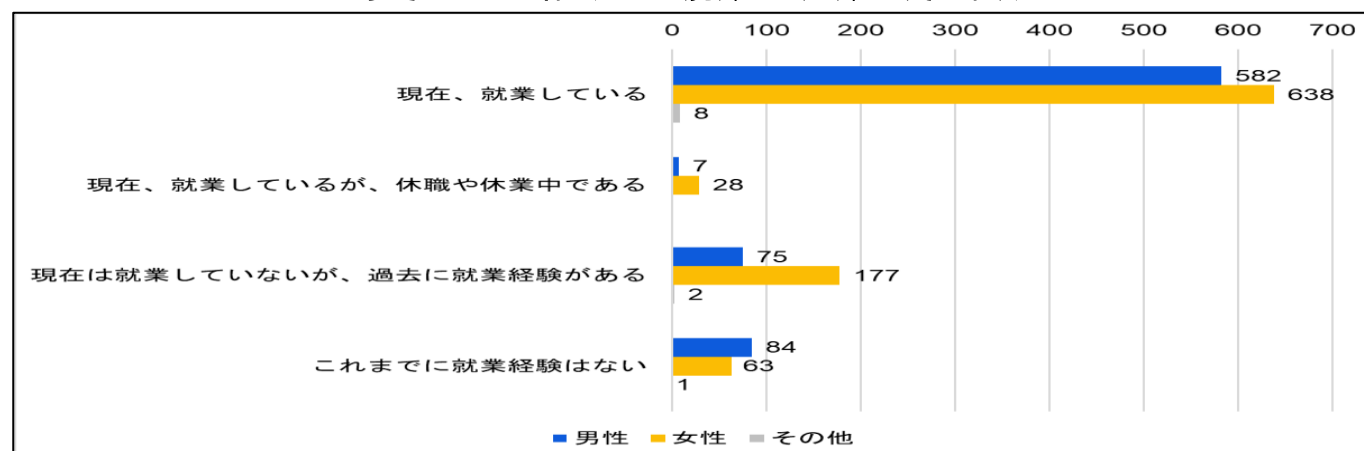
■ 就業経験 ※単一回答（単位：人）

- ・男女ともに「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」が最も多く、男性では13名（76.5%）、女性では14名（93.3%）となった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



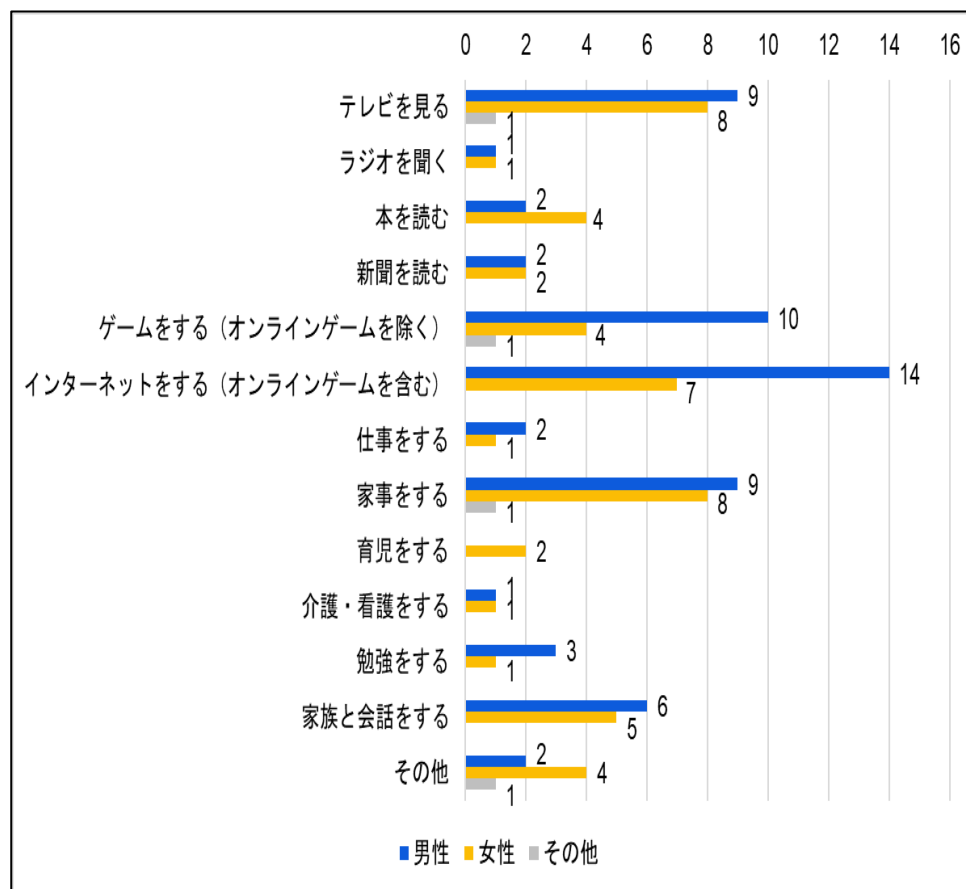
<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



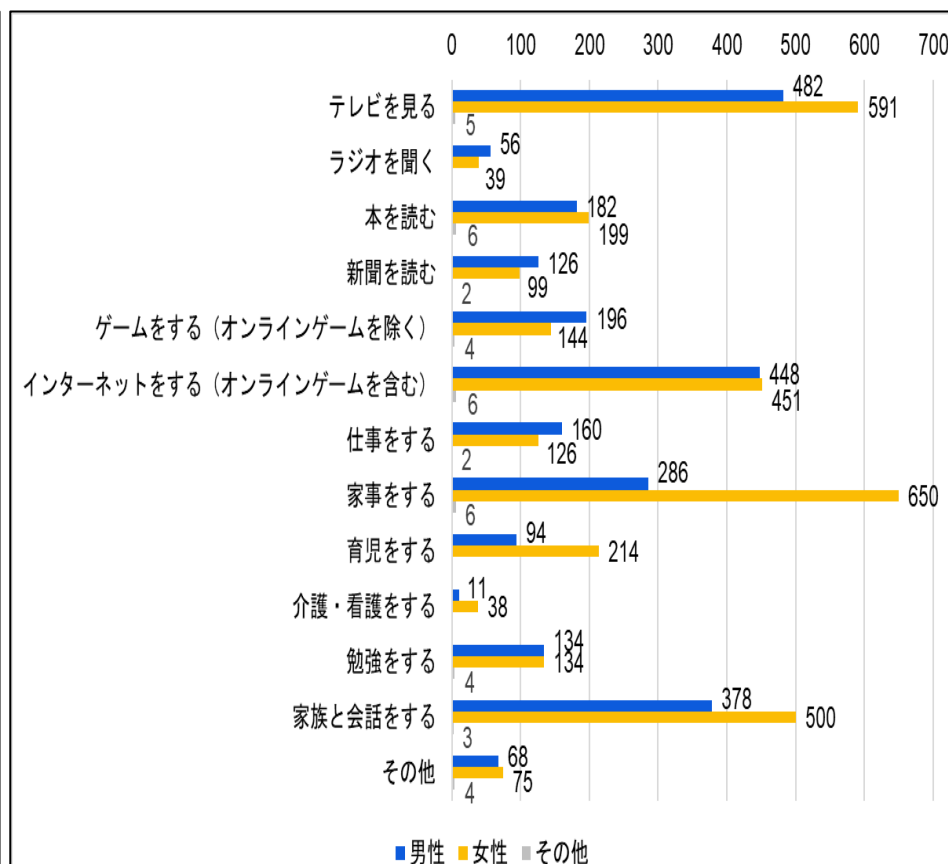
■ 普段の過ごし方 ※複数回答（単位：人）

- ・ 男性では、「インターネットをする」が最も多く、次いで、「ゲームをする」、「テレビを見る」、「家事をする」が多かった。
- ・ 女性では、「家事をする」、「テレビを見る」が最も多く、次いで、「インターネットをする」、「本を読む」が多かった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



＜参考＞全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



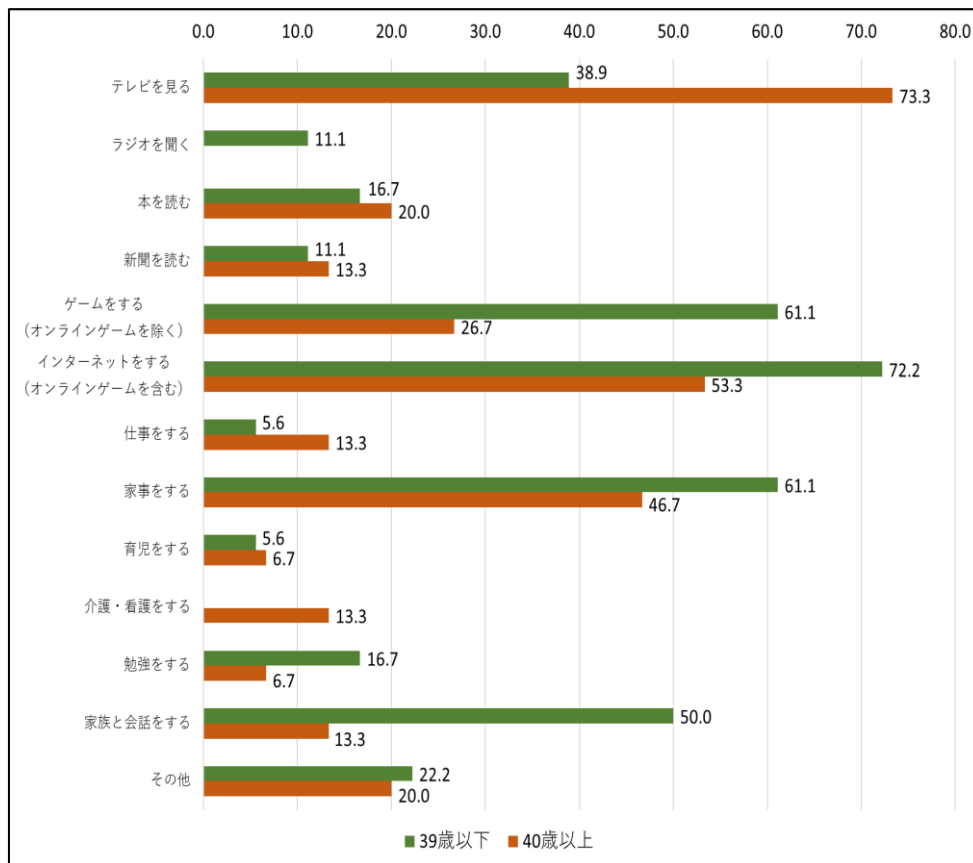
＜ひきこもり状態にある者の「その他」＞（抜粋）

「運動」、「（自分が）介護されている」、「家業手伝い」、「寝ている」、「音楽を聞いたり歌ったりしている」、「ペットの世話」など。

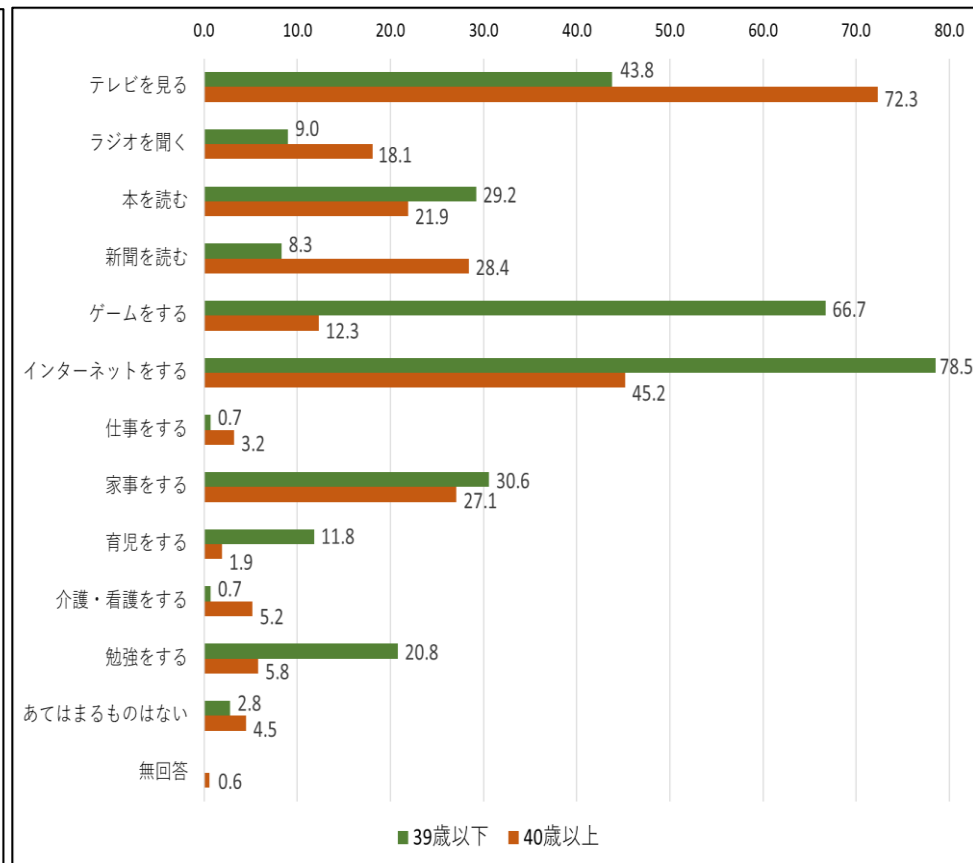
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

- ・ R4国調査と、概ね同じ傾向となった。
- ・ 40歳以上では、「家事」、「介護・看護」、「育児」をする者の割合が高くなった。

＜今回調査＞ (n=18 (39歳以下)、15 (40歳以上))



＜R4国調査＞ (n=144 (39歳以下)、155 (40歳以上))



※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

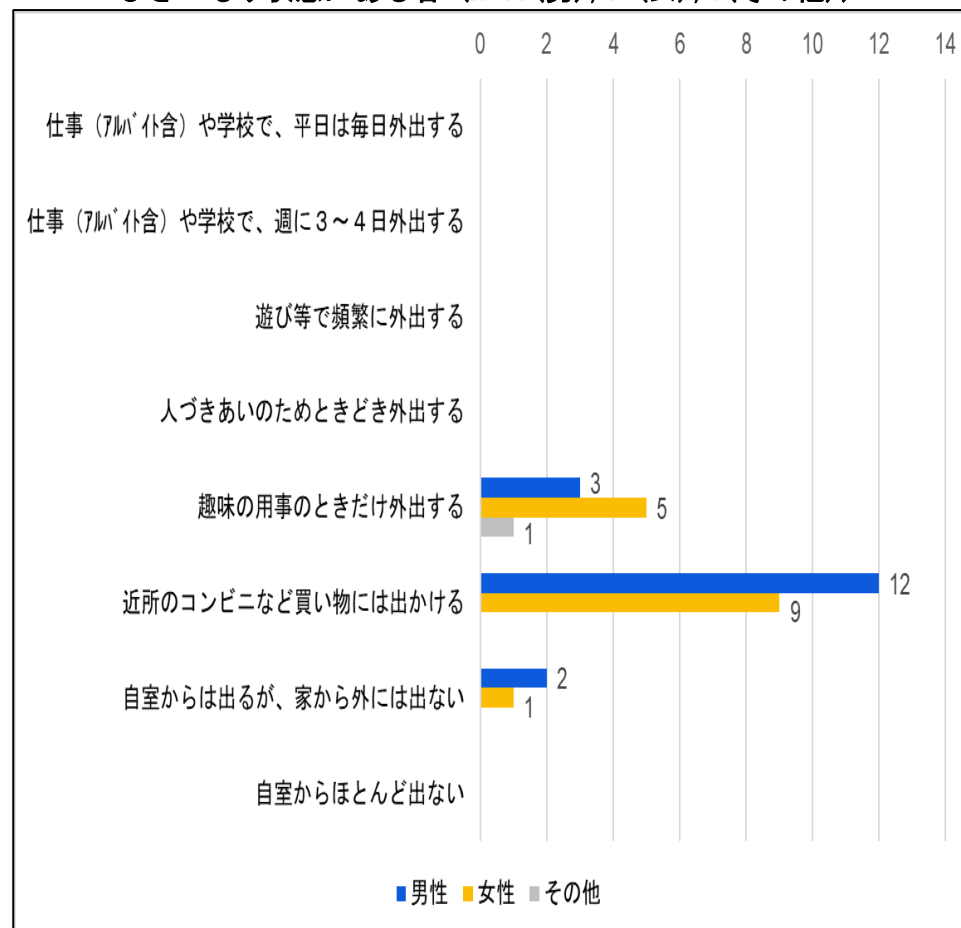
※今回調査では、オンラインゲームは「インターネットをする」に含めた。また、「家族と会話をする」は、今回調査での独自の選択肢。

※今回調査に、無回答者なし。

■ 現在の外出状況 ※単一回答（単位：人）

- ・男女ともに「近所のコンビニなど買い物には出かける」が最も多く、合計で21人（63.6%）となった。

ひきこもり状態にある者（n=17（男）、15（女）、1（その他））



<参考>全体（n=748（男）、906（女）、11（その他））

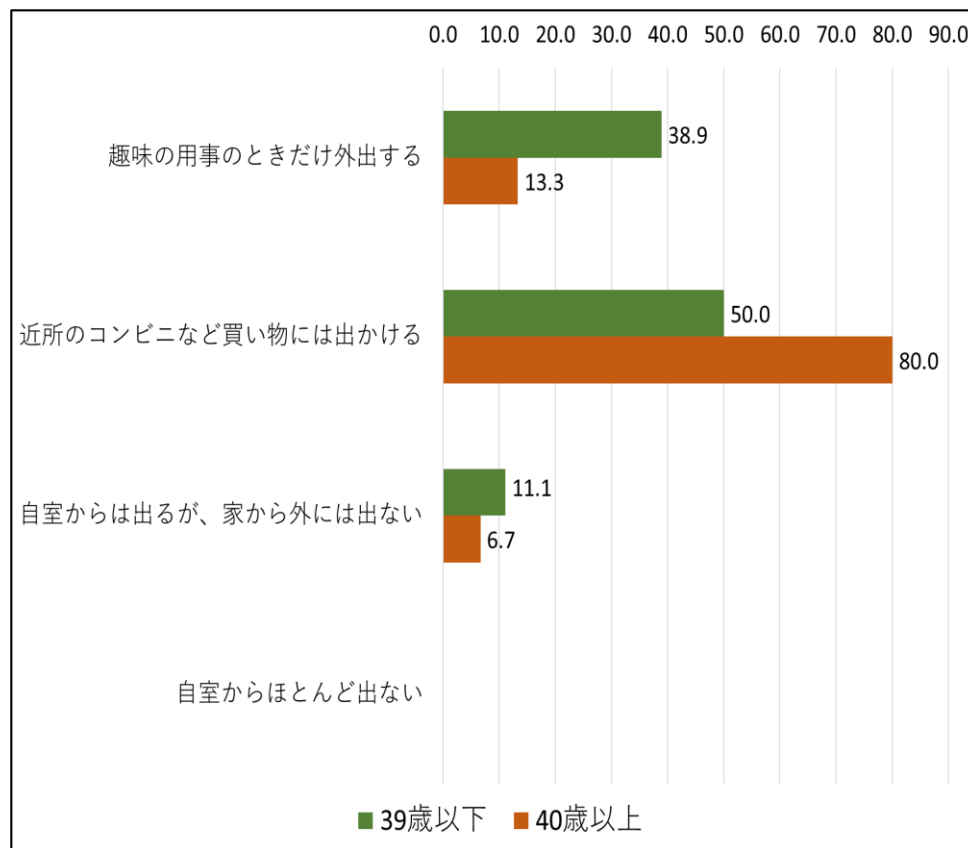


※全体の「自室からほとんど出ない」の2名は、男性1名、その他1名。

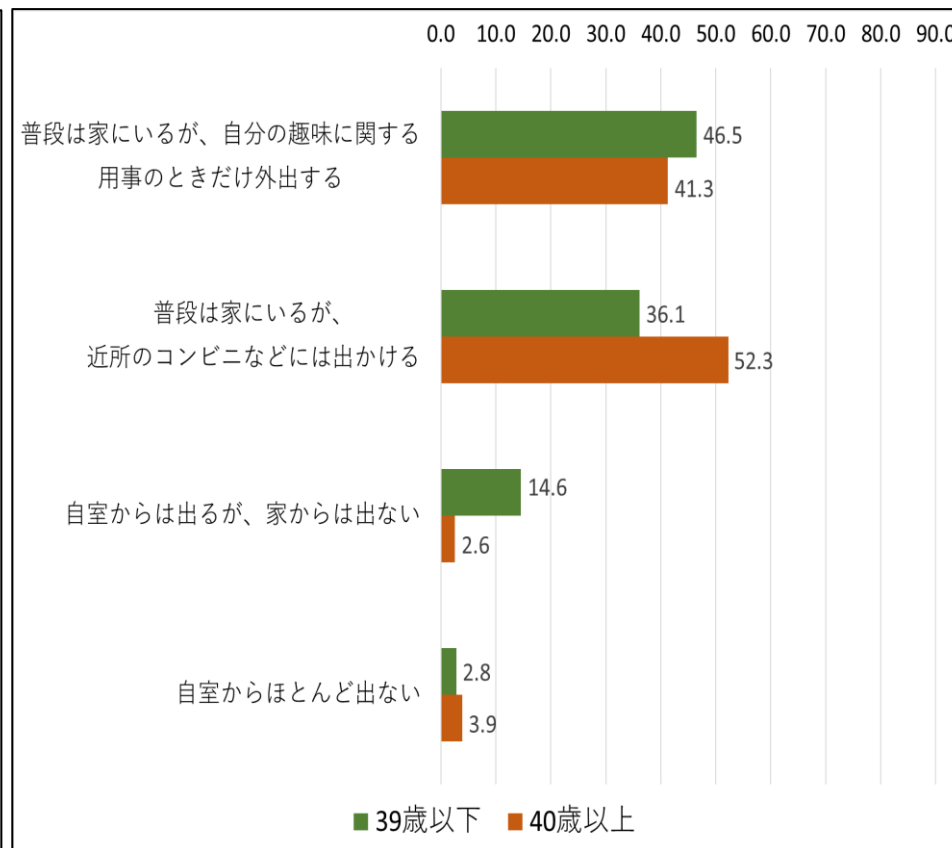
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

- ・ R4国調査と、概ね同じ傾向となった。
- ・ 40代以上では、「趣味の用事のときだけ外出する」の割合が低く、「近所のコンビニなどに出かける」者の割合が高くなり、R4国調査の約1.5倍となった。

<今回調査> (n=18 (39歳以下)、15 (40歳以上))

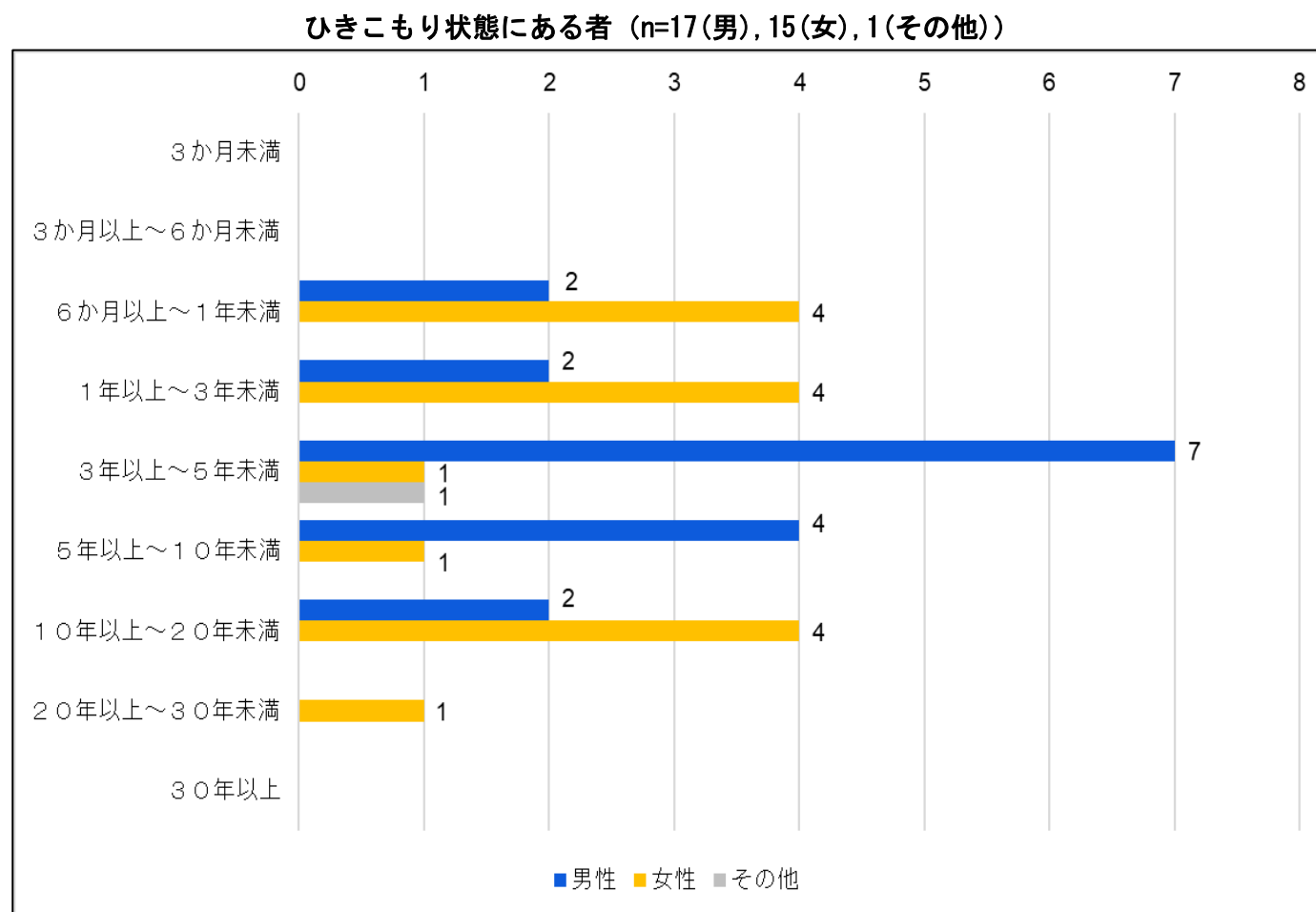


<R4国調査> (n=144 (39歳以下)、155 (40歳以上))



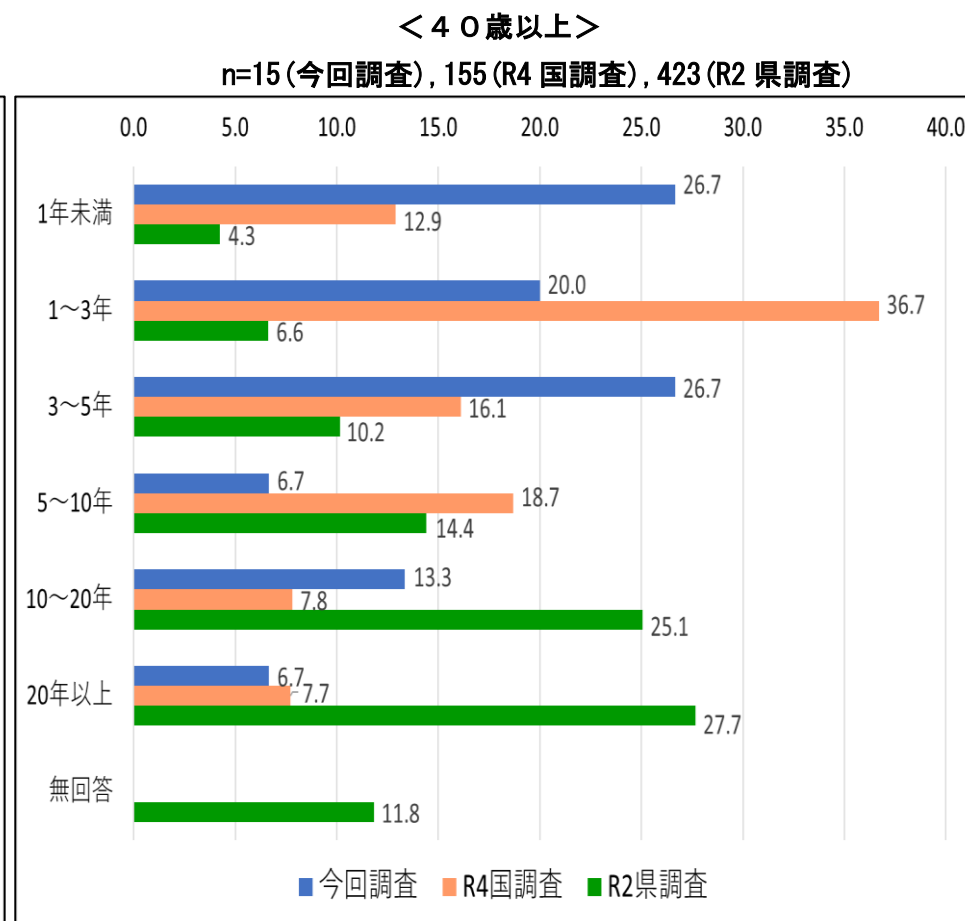
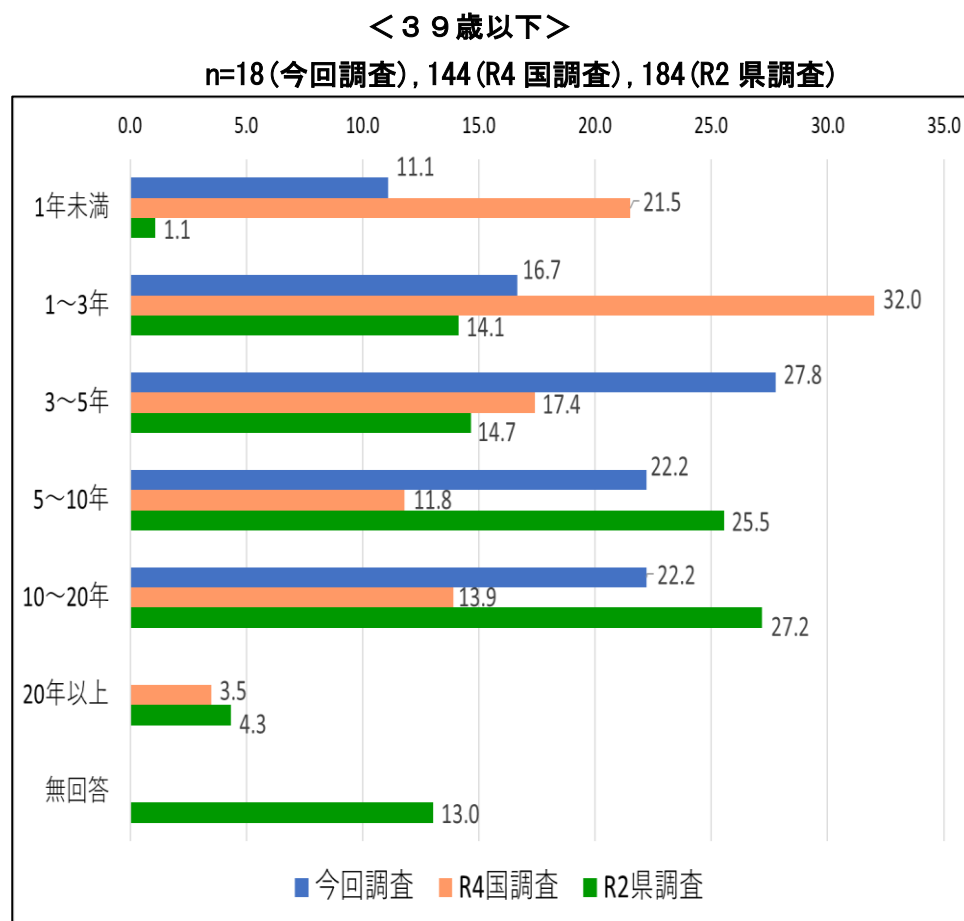
■ 現在の外出状況（経過年数） ※単一回答（単位：人）

・「3年以上～5年未満」が多く、合計で9人（27.3%）となった。



(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

・ R4国調査と、概ね同じ傾向となった。



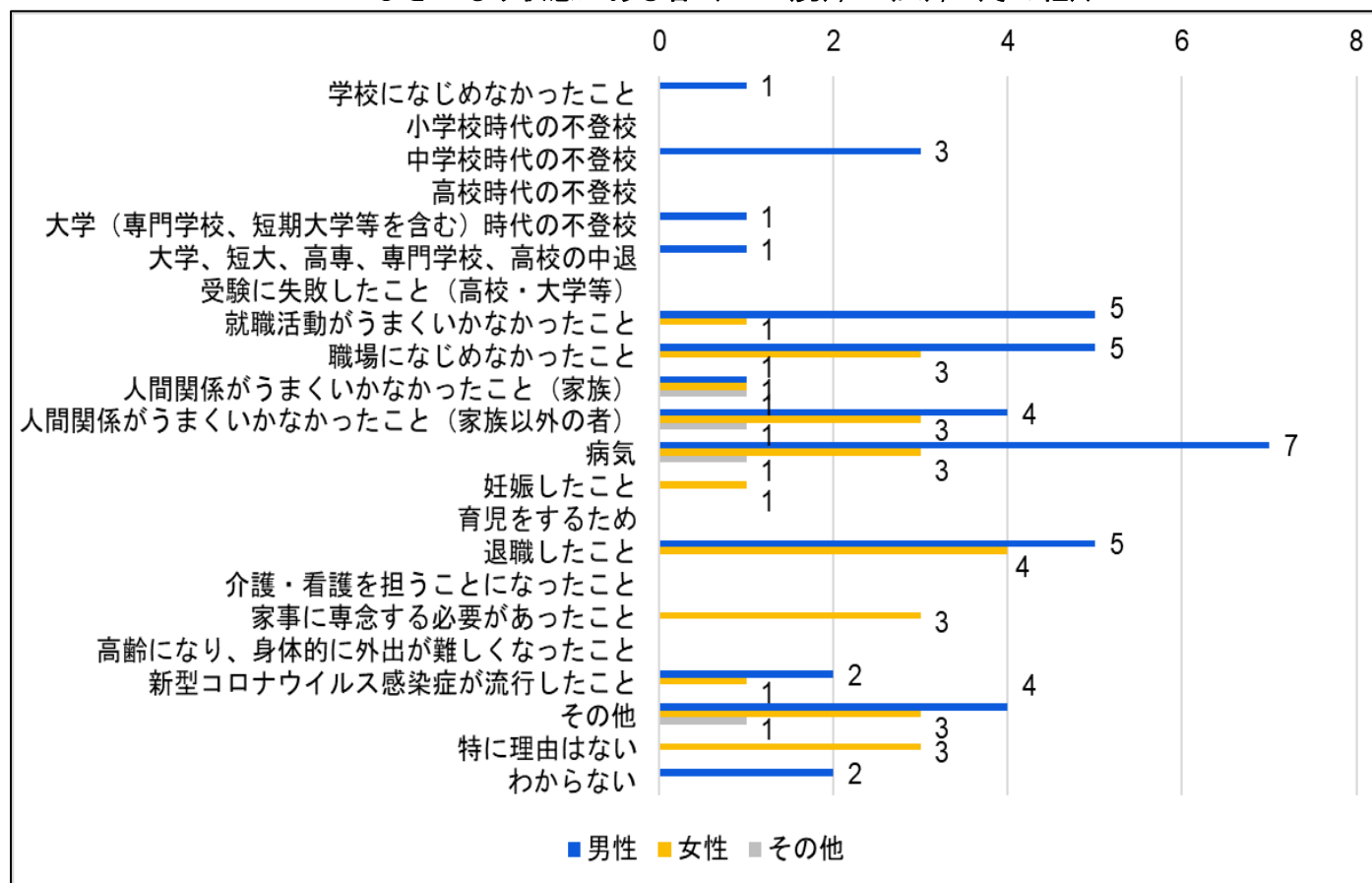
※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

※R4国調査の一部区分は、公表数値を合算した数値。

■ 現在の外出状況になった理由 ※複数回答（単位：人）

- ・「病気」や「人間関係」を選択した者が最も多く、それぞれ11人（33.3%）となった。
- ・次いで、「退職」9人（27.2%）、「職場になじめなかった」8人（24.2%）を選択した者が多かった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）

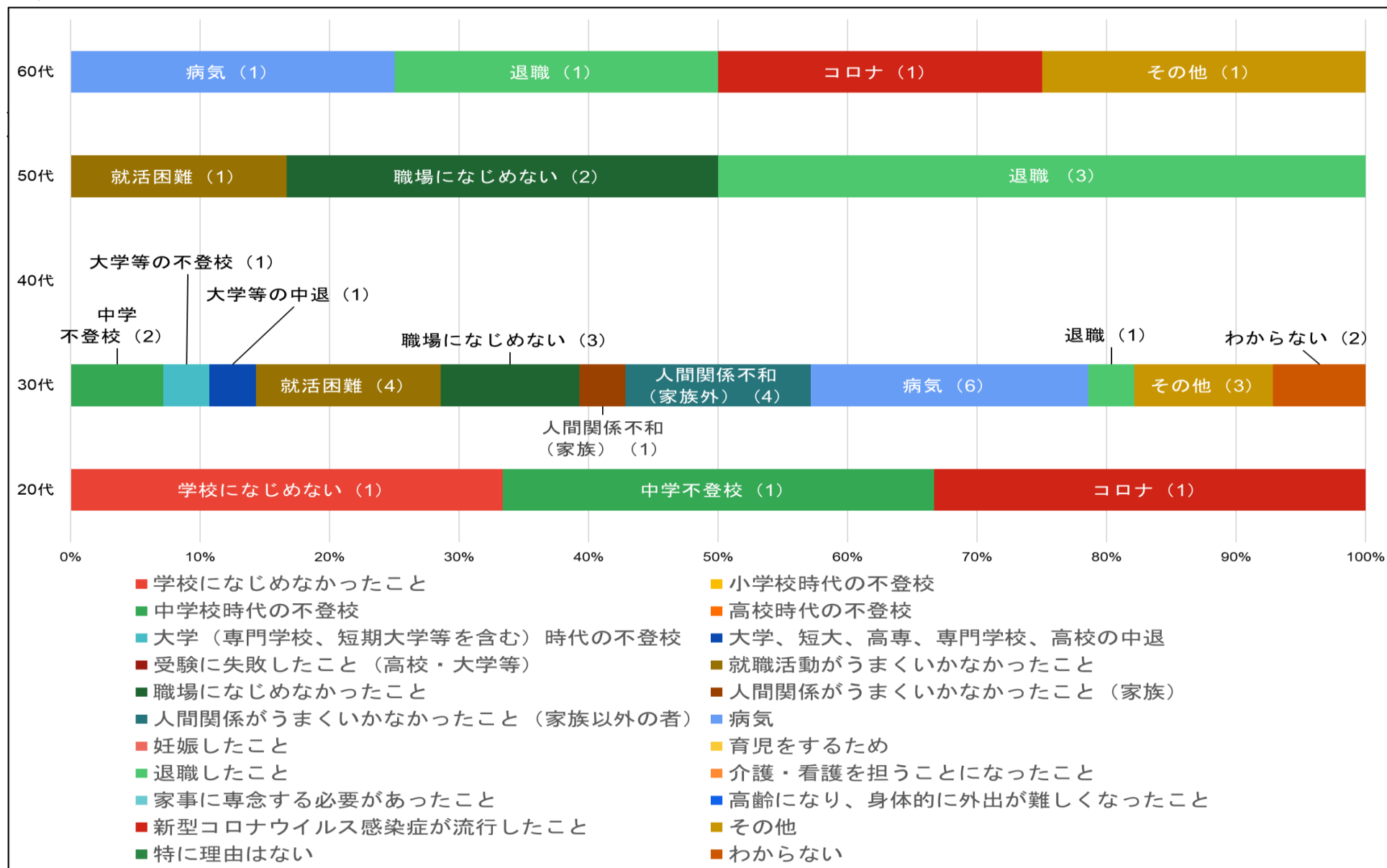


<ひきこもり状態にある者の「その他」>（抜粋）

「環境変化のストレスに弱い」「生活リズムを変えにくい」、「免許証失効」、「若い頃に母が亡くなり、男手一人で育ててくれた父も亡くなり家庭環境が大きく変わった」など

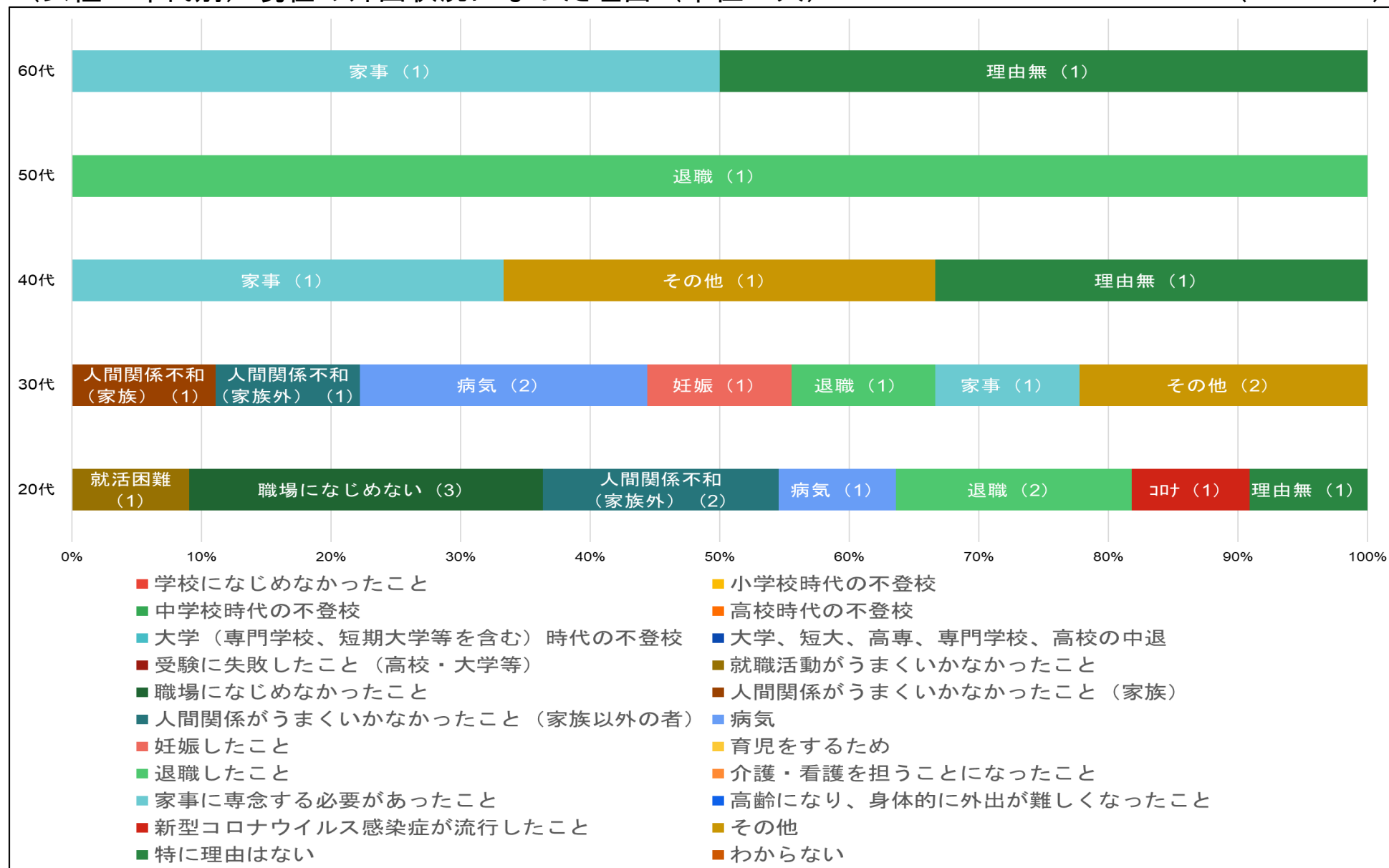
(男性・年代別) 現在の外出状況になった理由 (単位: 人)

(n = 17)



(女性・年代別) 現在の外出状況になった理由 (単位: 人)

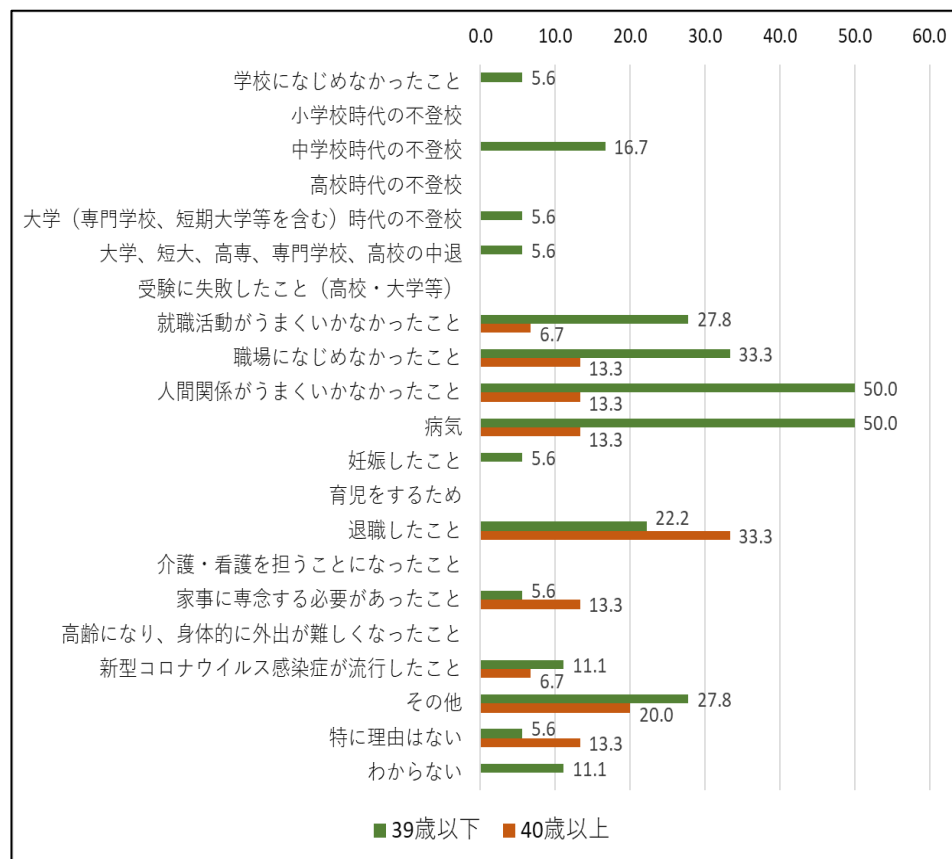
(n = 15)



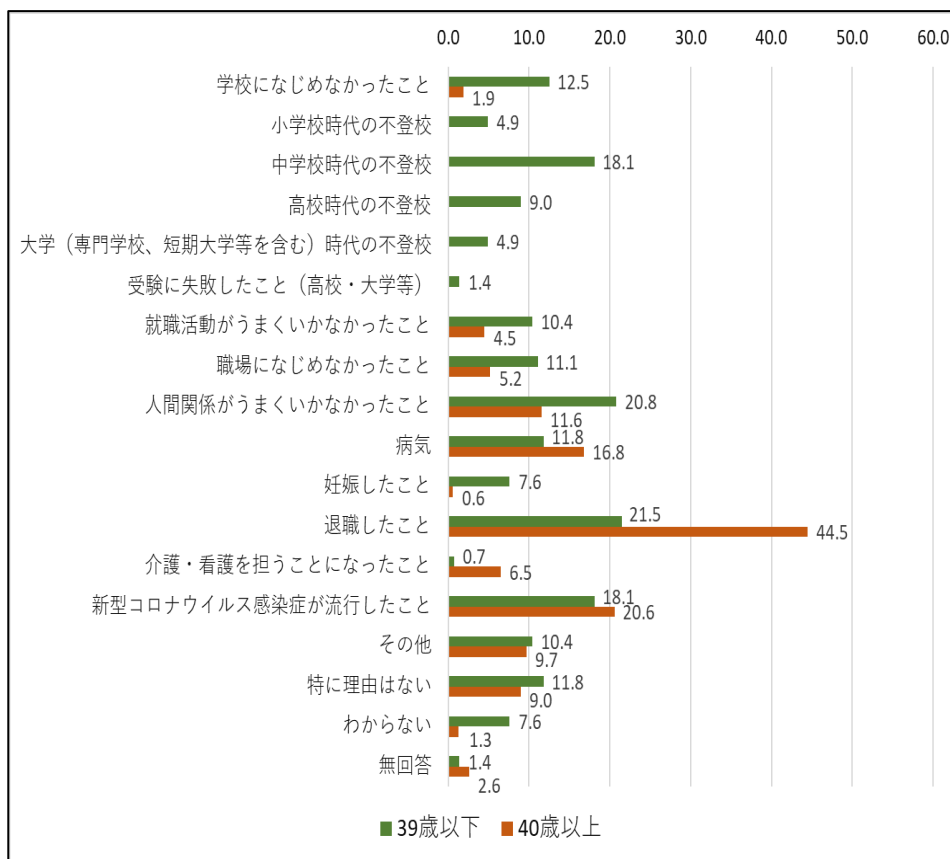
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別割合比較) (単位: パーセント)

- ・ 39歳以下においては、R4国調査同様に「退職」、「人間関係」を理由にあげる者の割合が高いが、今回調査では、これに加え、「病気」、「職場になじめない」、「就職活動がうまくいかなかった」を理由にあげる者の割合が高かった。
- ・ 40歳以上においては、「退職」が最も多いなど、R4国調査と概ね同じ傾向となった。

<今回調査> (n=18 (39歳以下)、15 (40歳以上))



<R4国調査> (n=144 (39歳以下)、155 (40歳以上))



※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

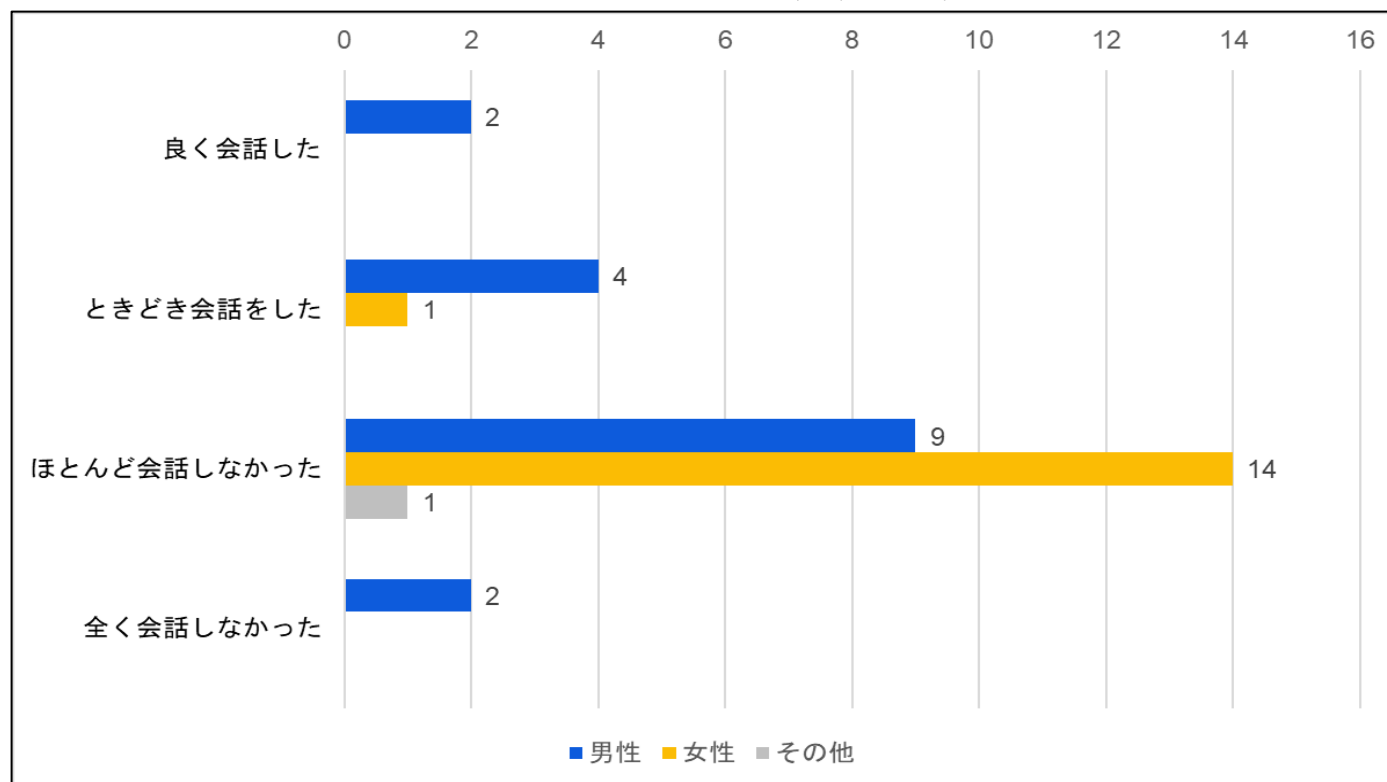
※今回調査では、R4国調査との比較のため、「人間関係がうまくいかなかったこと(家族)」、「人間関係がうまくいかなかったこと(家族以外)」を、「人間関係がうまくいかなかったこと」に統合。また、「大学、短大、高専、専門学校、高校の中退」、「家事に専念する必要があったこと」、「高齢になり、身体的に外出が困難になったこと」は独自選択肢。

※今回調査に、無回答者なし。

■ 直近 6 か月間の家族以外との会話状況 ※単一回答（単位：人）

・家族以外の者と「ほとんど会話しなかった」が多く、72.7%（24人）となった。

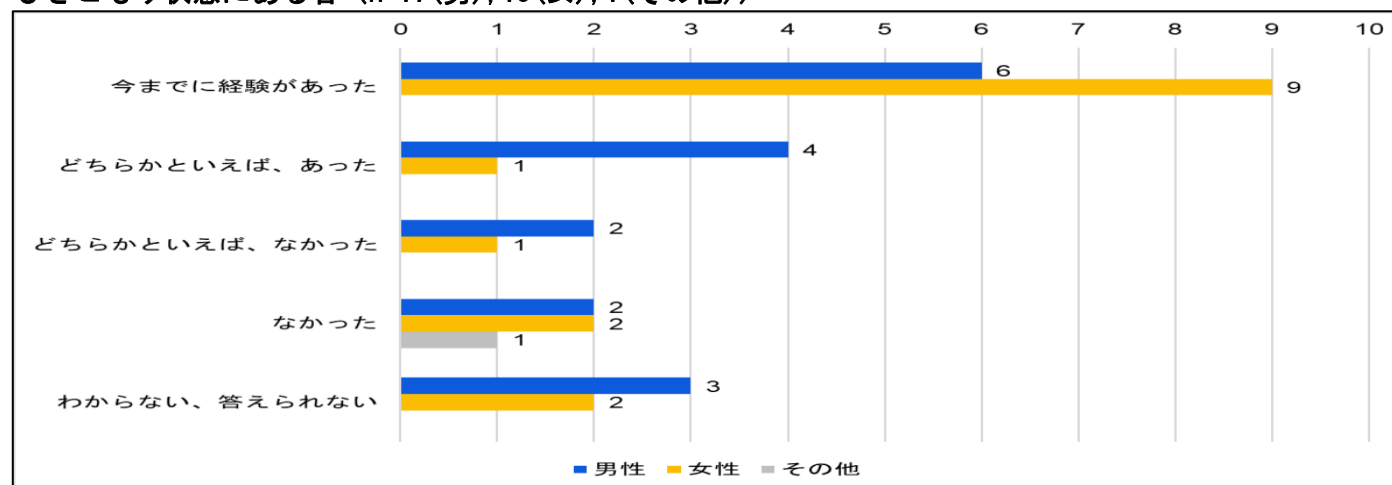
ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



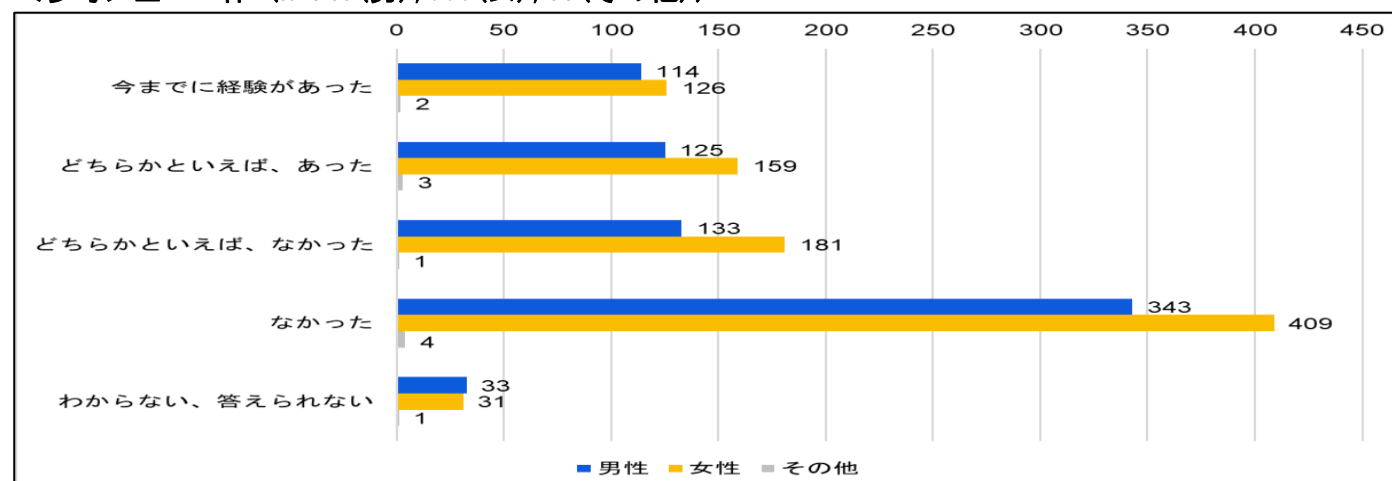
■ 社会生活や日常生活で円滑に送れなかった経験（経験の有無）※単一回答（単位：人）

・「今までに経験があった」と答えた者が最も多く、「どちらかといえば、あった」と合わせると20人（60.6%）となり、全体の回答と逆の傾向となった。特に、20代・30代は、その割合が高かった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



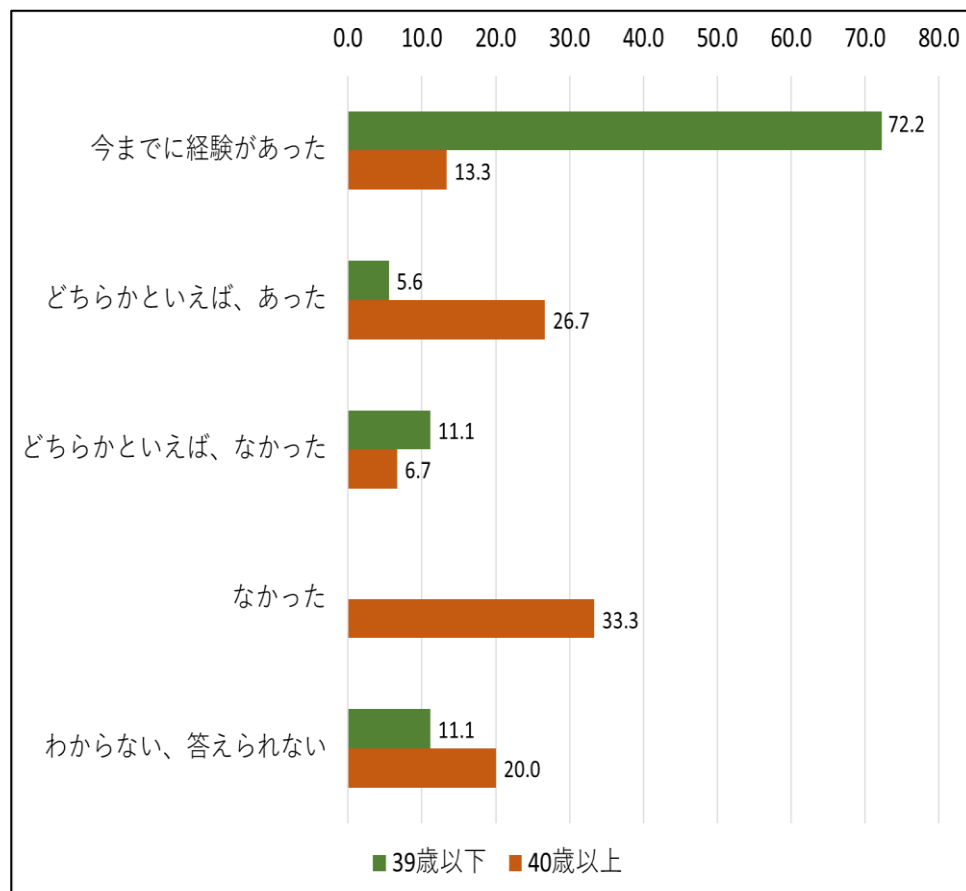
<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



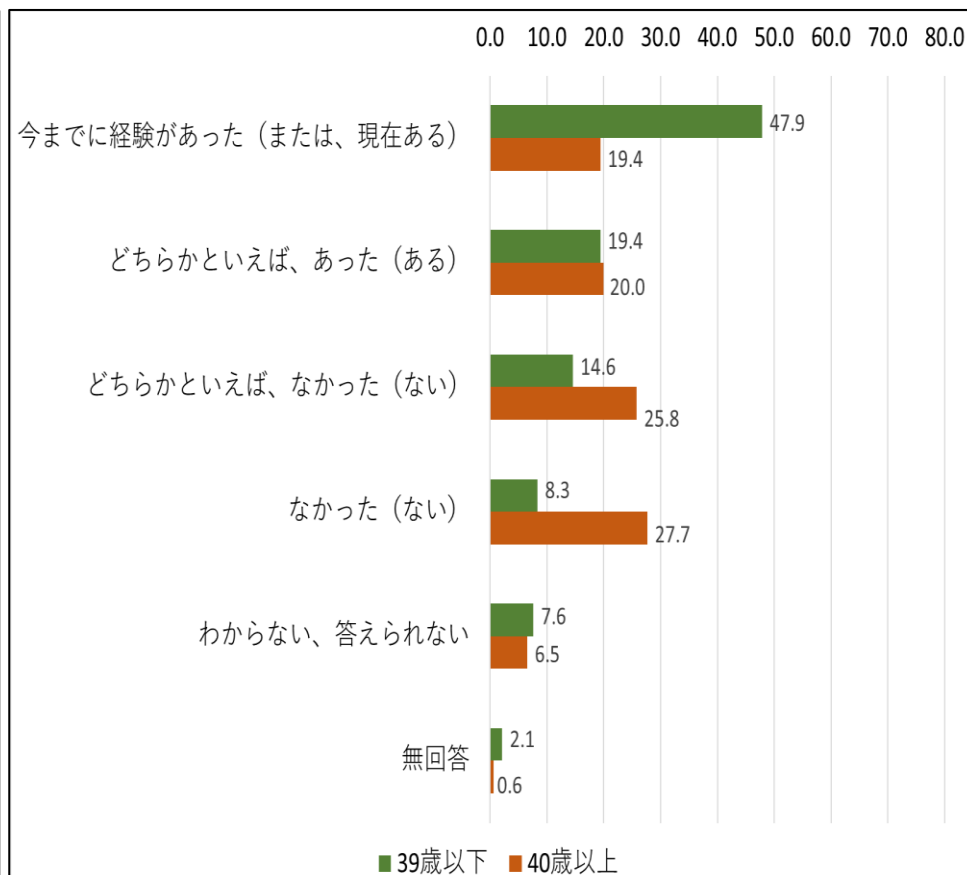
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: パーセント)

・ R 4 国調査と、概ね同じ傾向となった。

<今回調査> (n=18 (39 歳以下)、15 (40 歳以上))



<R 4 国調査> (n=144 (39 歳以下)、155 (40 歳以上))



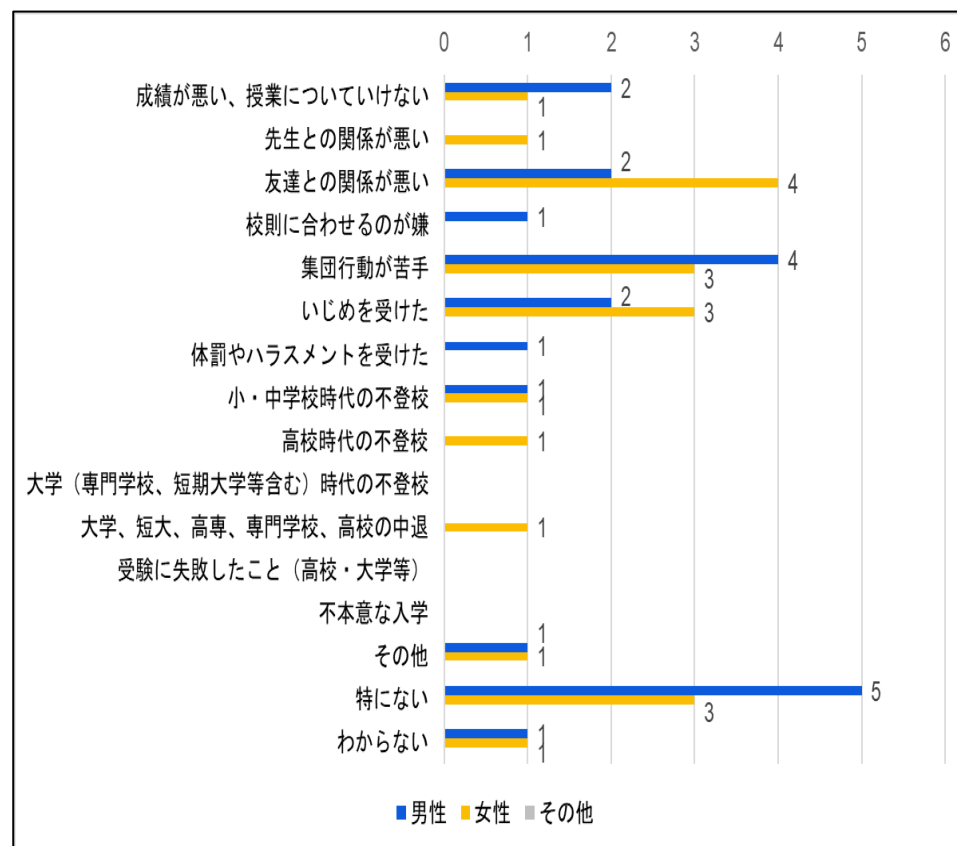
※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

※今回調査に、無回答者なし。

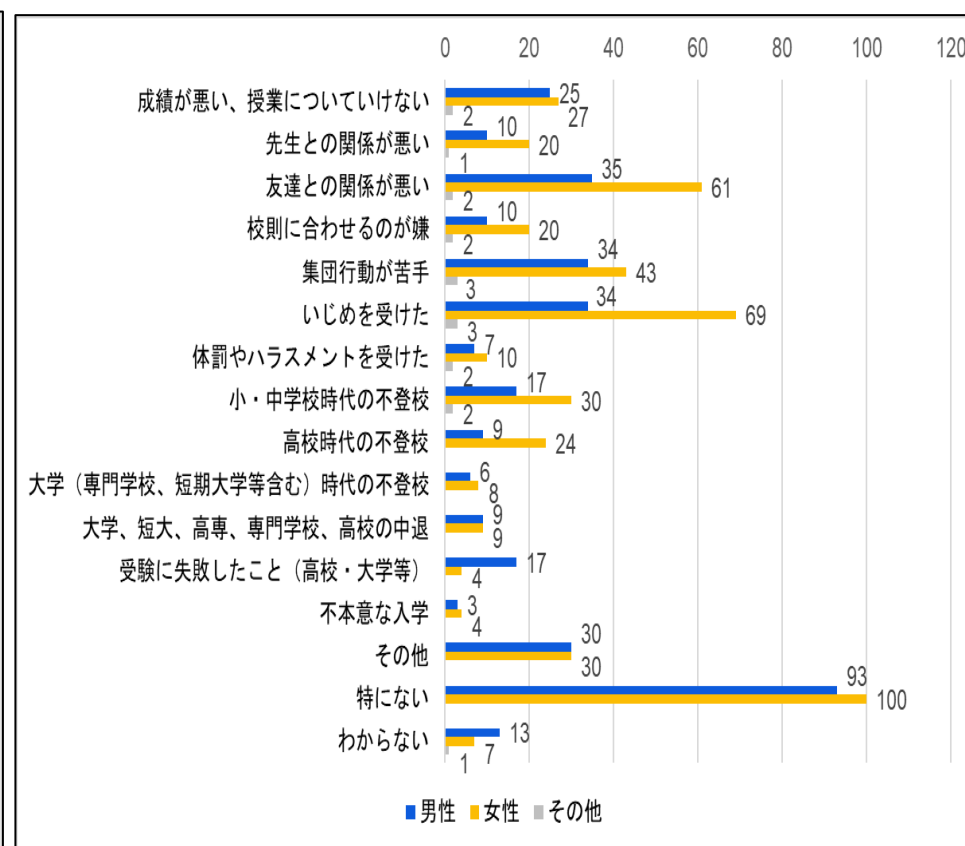
■ 社会生活や日常生活で円滑に送れなかった経験（学校での経験）※複数回答（単位：人）

- ・男性では、「特にない」が最も多く、次いで、「集団行動が苦手」が多かった。また、女性では、「友達との関係」、「集団行動が苦手」、「いじめを受けた」、「特にない」が多かった。

ひきこもり状態にある者（n=10(男), 10(女), 0(その他)）



<参考> 全体（n=239(男), 285(女), 5(その他)）



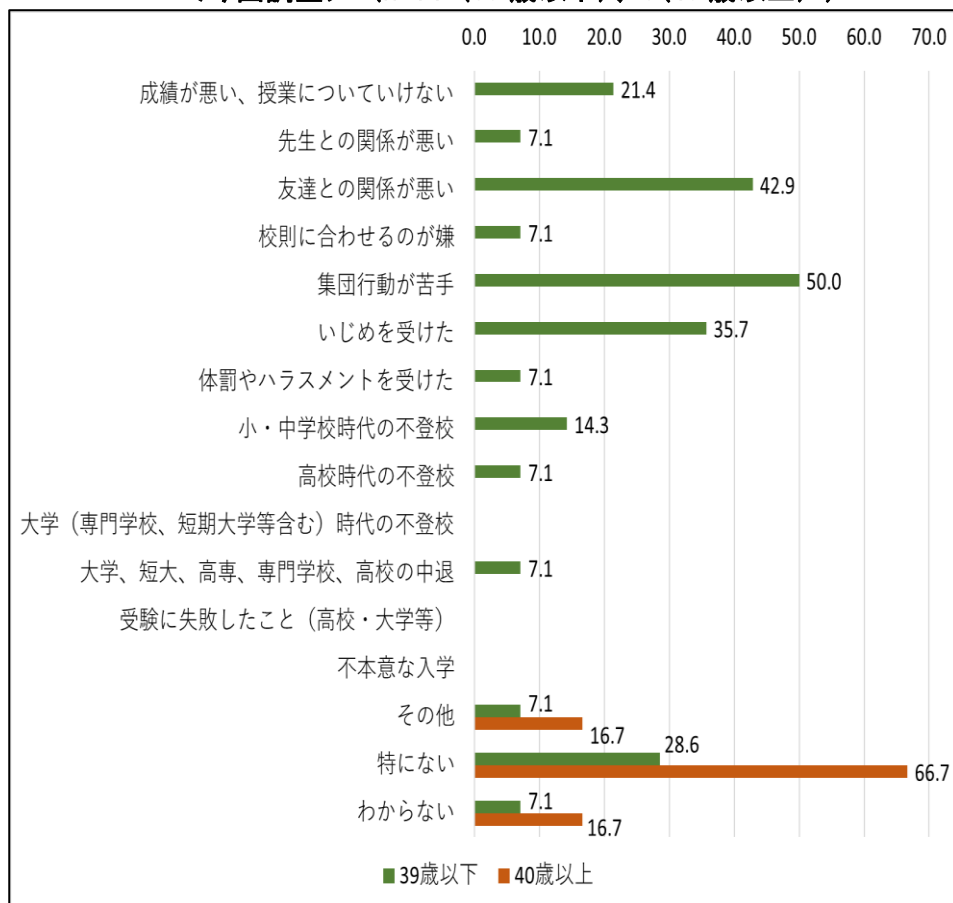
<ひきこもり状態にある者の「その他」>（抜粋）

「おそらく、進学や就職等の環境変化のストレスが蓄積し、それに耐え切れなかった」、「病気」

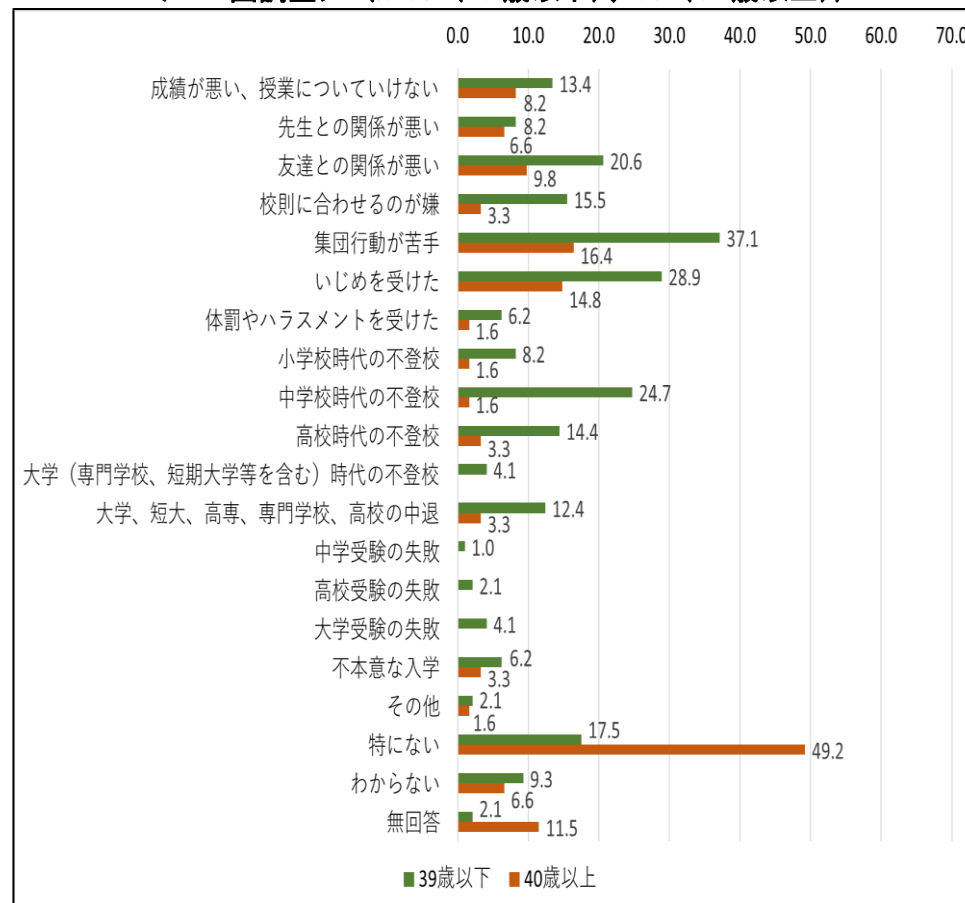
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: パーセント)

- ・ 39歳以下では、R4国調査と概ね同じ傾向となった。
- ・ 40歳以上においても、今回調査、R4国調査ともに、「特にない」が最も高かった。R4国調査においては、さまざまな理由があげられているが、今回調査では「その他」、「特にない」、「わからない」のみで限定的となった。

<今回調査> (n=14 (39歳以下)、6 (40歳以上))



<R4国調査> (n=97 (39歳以下)、61 (40歳以上))



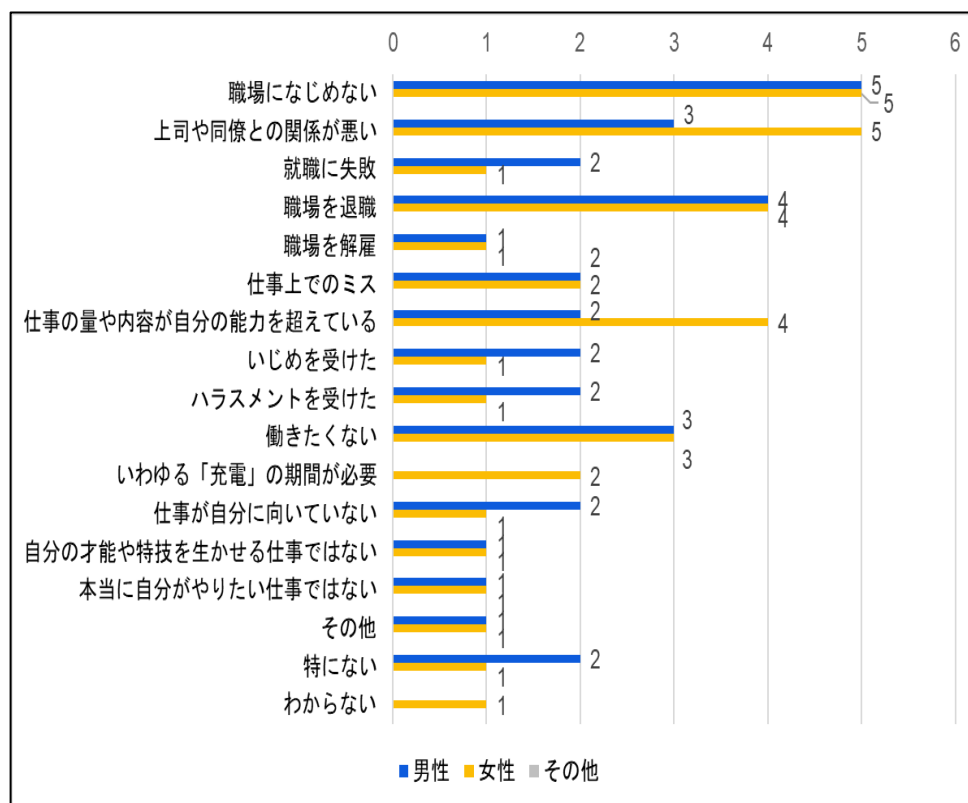
※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

※今回調査に、無回答者なし。

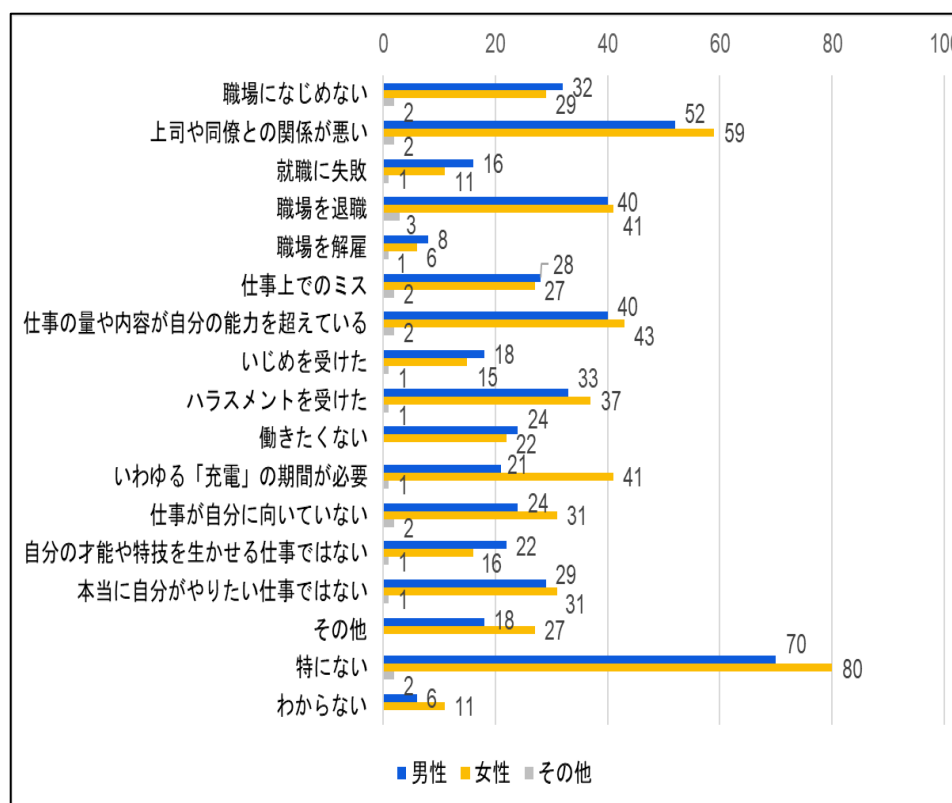
■ 社会生活や日常生活で円滑に送れなかった経験（仕事・職場での経験）※複数回答（単位：人）

- ・男性では、「職場になじめない」が最も多く、次いで、「職場を退職」、「上司や同僚との関係が悪い」、「働きたくない」が多かった（特に、30代）。
- ・女性では、「職場になじめない」、「上司や同僚との関係が悪い」が最も多く、次いで、「職場を退職」、「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」が多かった（特に、20代、30代）。

ひきこもり状態にある者（n=10(男), 10(女), 0(その他)）



<参考> 全体（n=239(男), 285(女), 5(その他)）



※「ひきこもり状態にある者」、「全体」とともに無回答者なし。

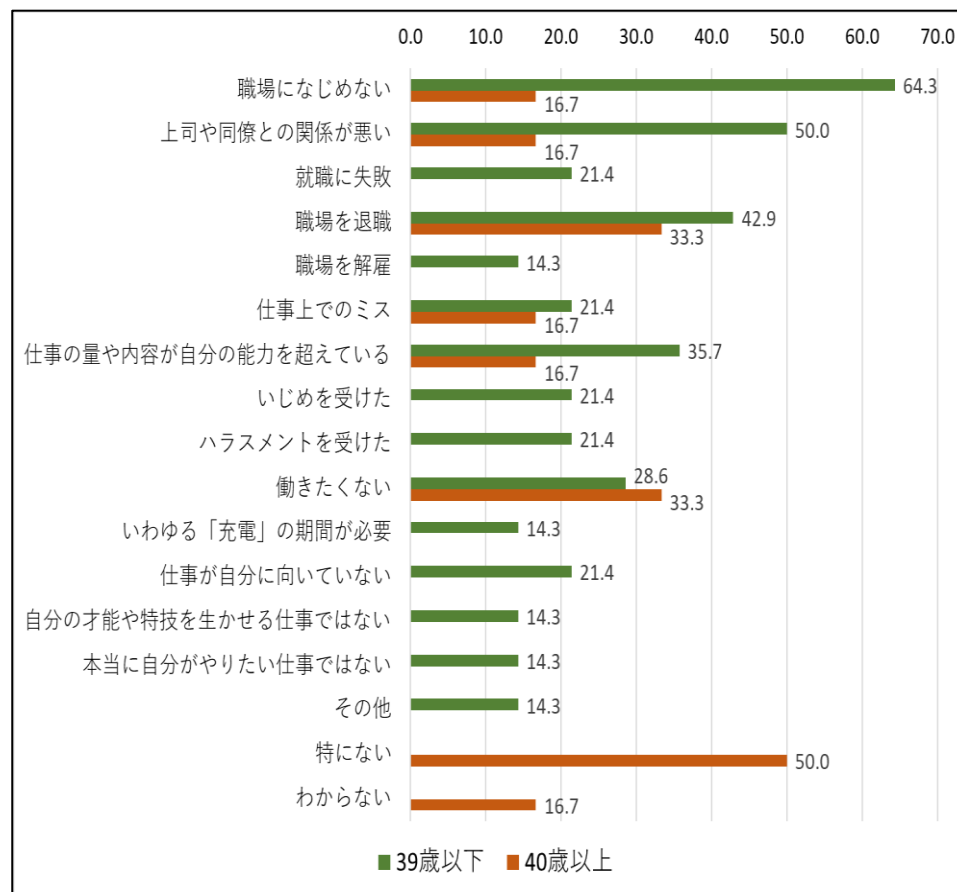
<ひきこもり状態にある者の「その他」>（抜粋）

「おそらく、進学や就職等の環境変化のストレスが蓄積し、それに耐え切れなかった。将来を想像できなかったことも一因かもしれない」など

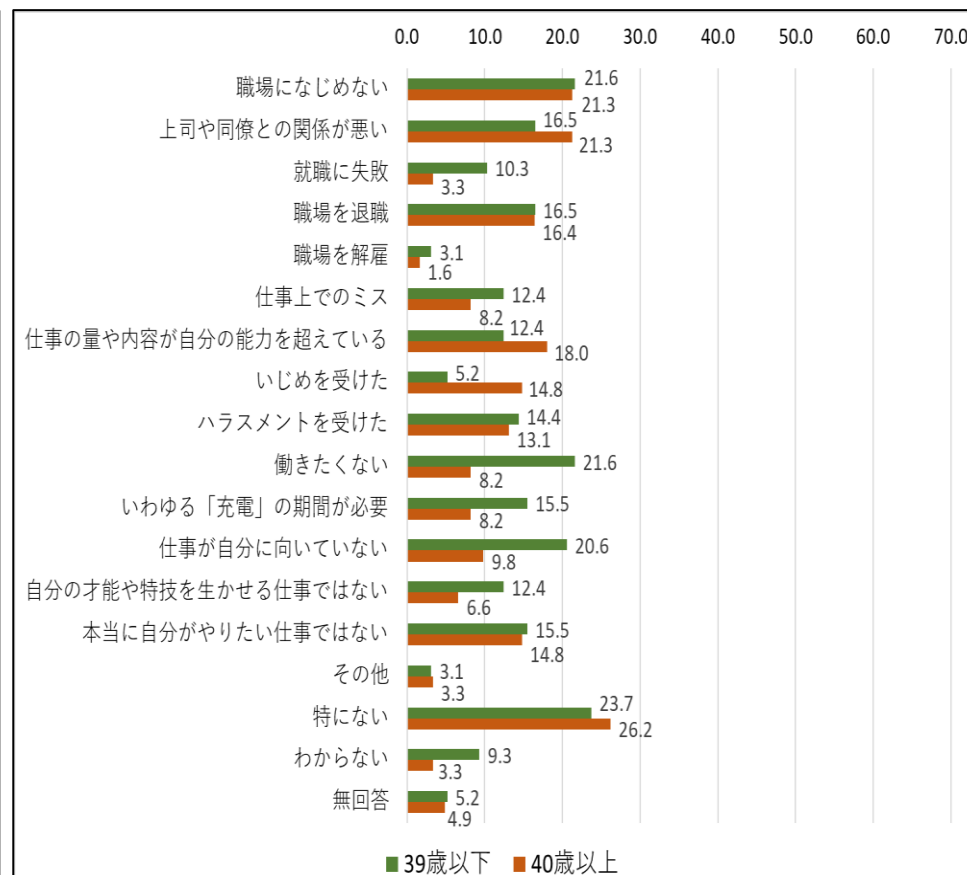
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: パーセント)

- ・ 30代以下では、「職場になじめない」、「上司や同僚の関係が悪い」、「職場を退職」、「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」の項目を選択した者の割合が、R4国調査よりも高い傾向がある。
- ・ 40代以上では、「特にない」の割合が最も高いのは、R4国調査と同様であるが、その割合は約2倍となっている。

＜今回調査＞ (n=14 (39歳以下)、6(40歳以上))



＜R4国調査＞ (n=97 (39歳以下)、61 (40歳以上))



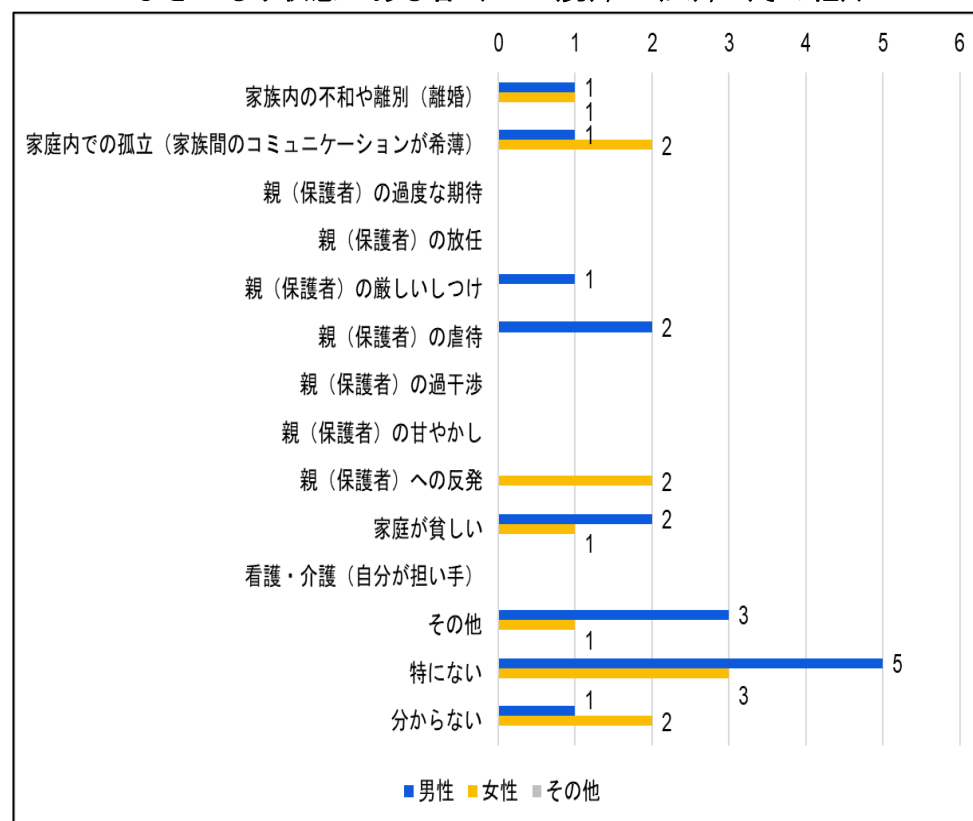
※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。

※今回調査に、無回答者なし。

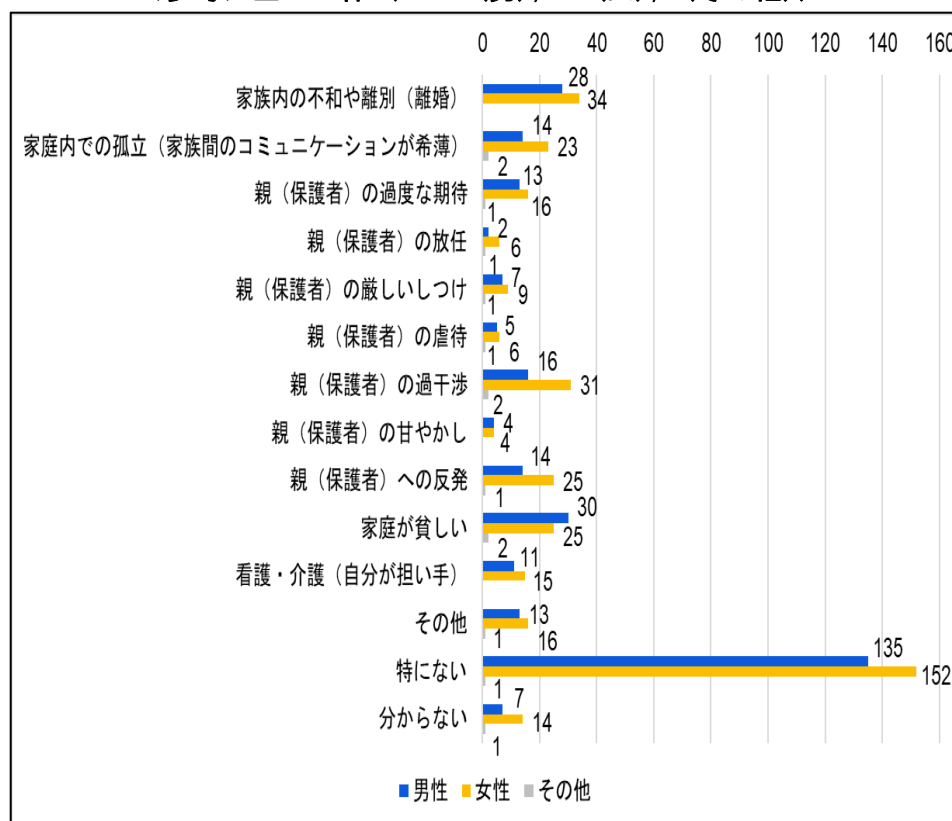
■ 社会生活や日常生活で円滑に送れなかった経験（家族・家庭での経験）※複数回答（単位：人）

・男女とも、「特にない」が最も多く、全体の28.6%であり、「家庭内での孤立」、「親の虐待」、「親への反発」、「家庭が貧しい」などの回答が46.4%となった。

ひきこもり状態にある者（n=10(男), 10(女), 0(その他)）



<参考> 全体（n=239(男), 285(女), 5(その他)）



※「ひきこもり状態にある者」、「全体」とともに、無回答者なし。

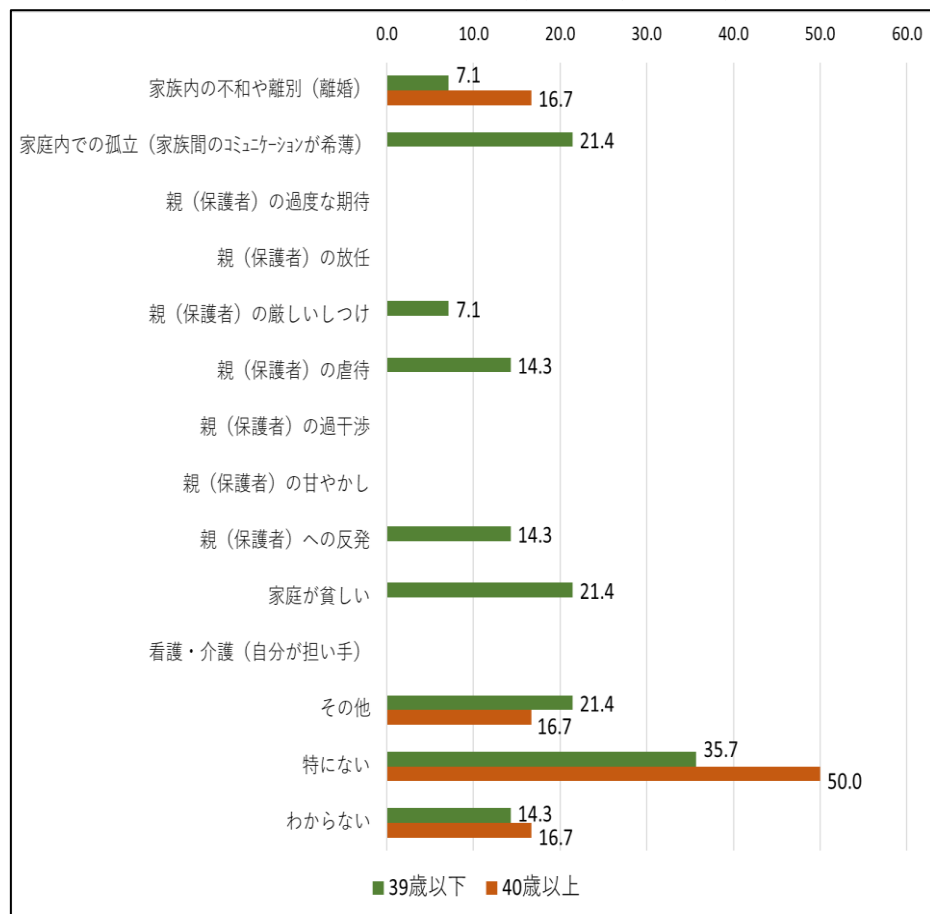
<ひきこもり状態にある者の「その他」>（抜粋）

「親と子で価値観がそぐわなかったりする」、「お互いに歩み寄れるよう努める、家庭内であらゆる余裕がなかった。お金、心、物、空間、等々」、「若い頃に母親が病気でなくなったため、片親で育てられた」など

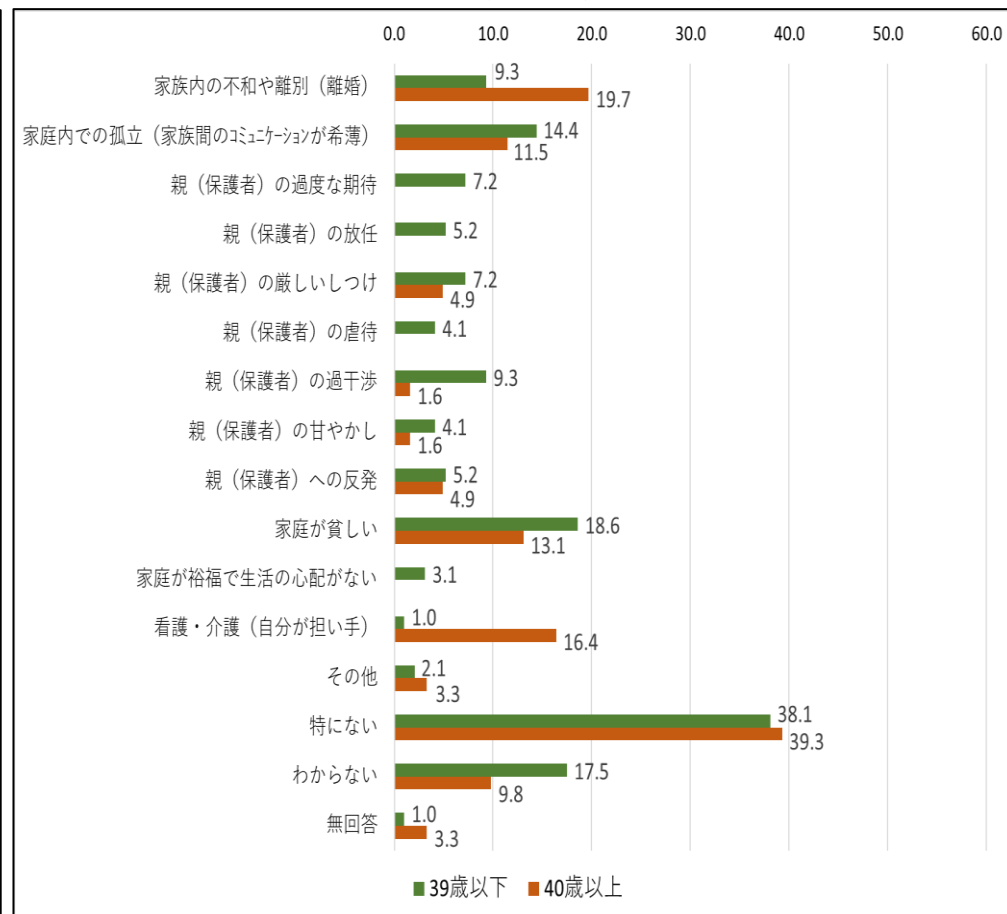
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: パーセント)

- ・ R 4 国調査と同じく、「特にない」が最も高かった。

<今回調査> (n=14 (39歳以下)、6 (40歳以上))



< R 4 国調査 > (n=97 (39歳以下)、61 (40歳以上))

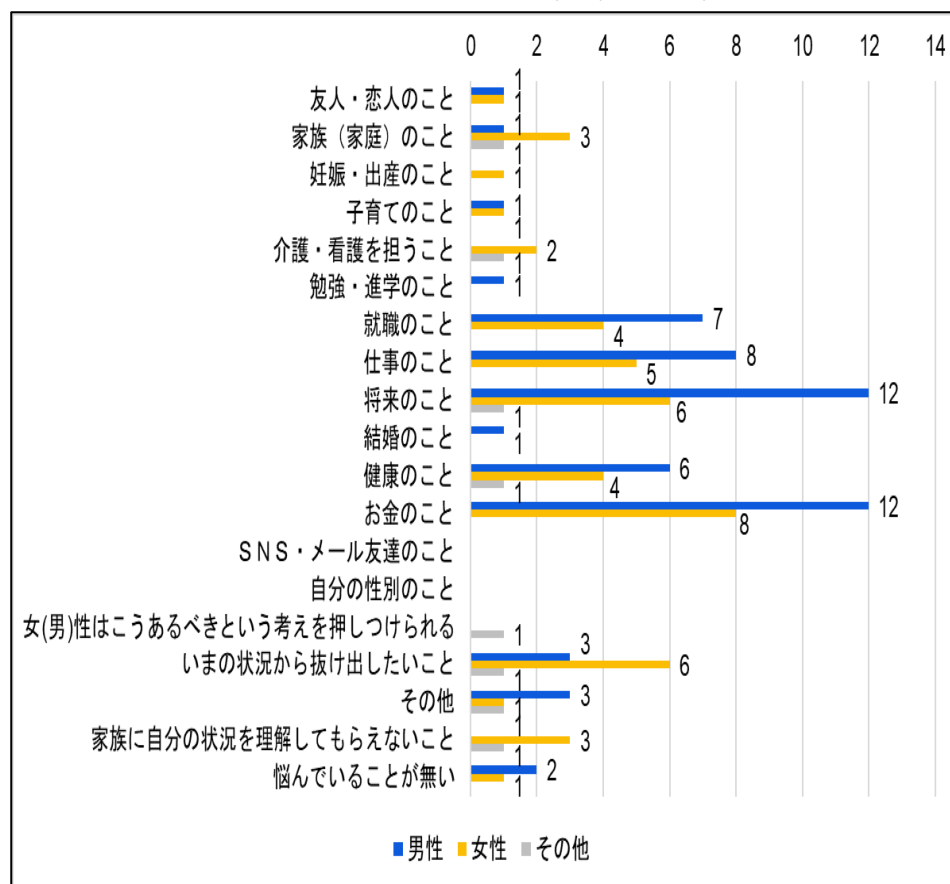


※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。
 ※今回調査に、無回答者なし。

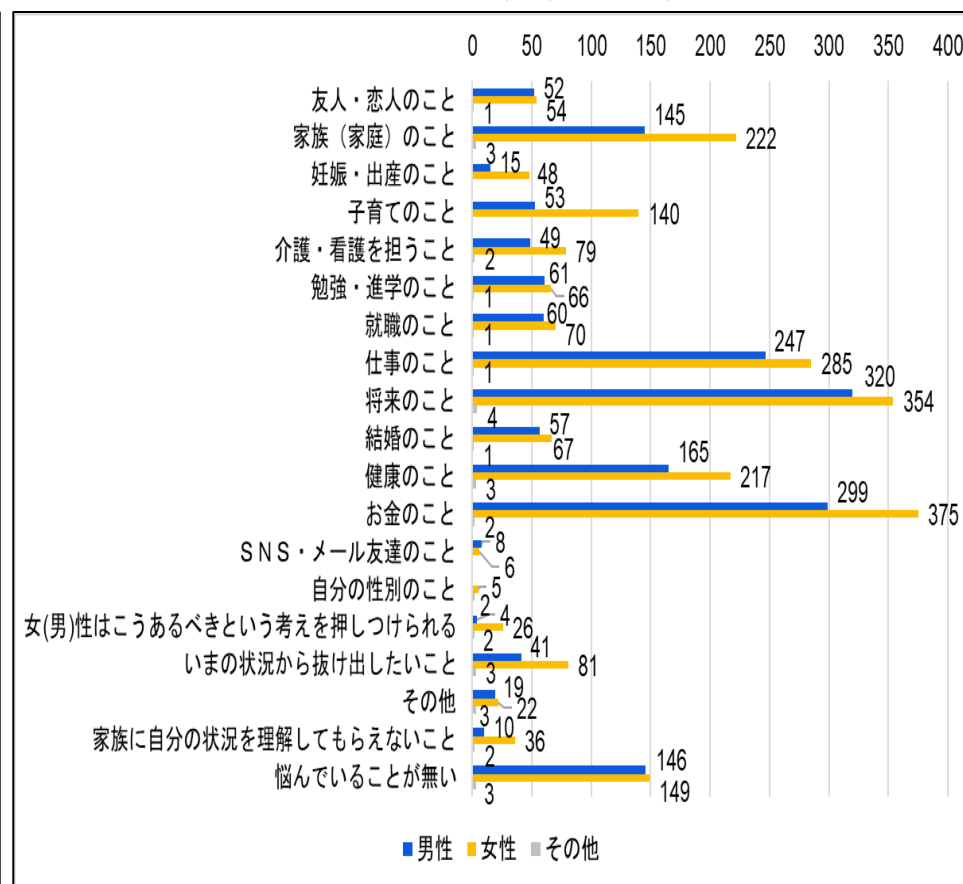
■ 現在の悩み ※複数回答（単位：人）

- ・男女とも、「お金」、「将来」、「仕事」、「就職」、「健康」が多かった。
- ・また、女性では、「いまの状態から抜け出したい」も多かった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



<参考>全 体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）

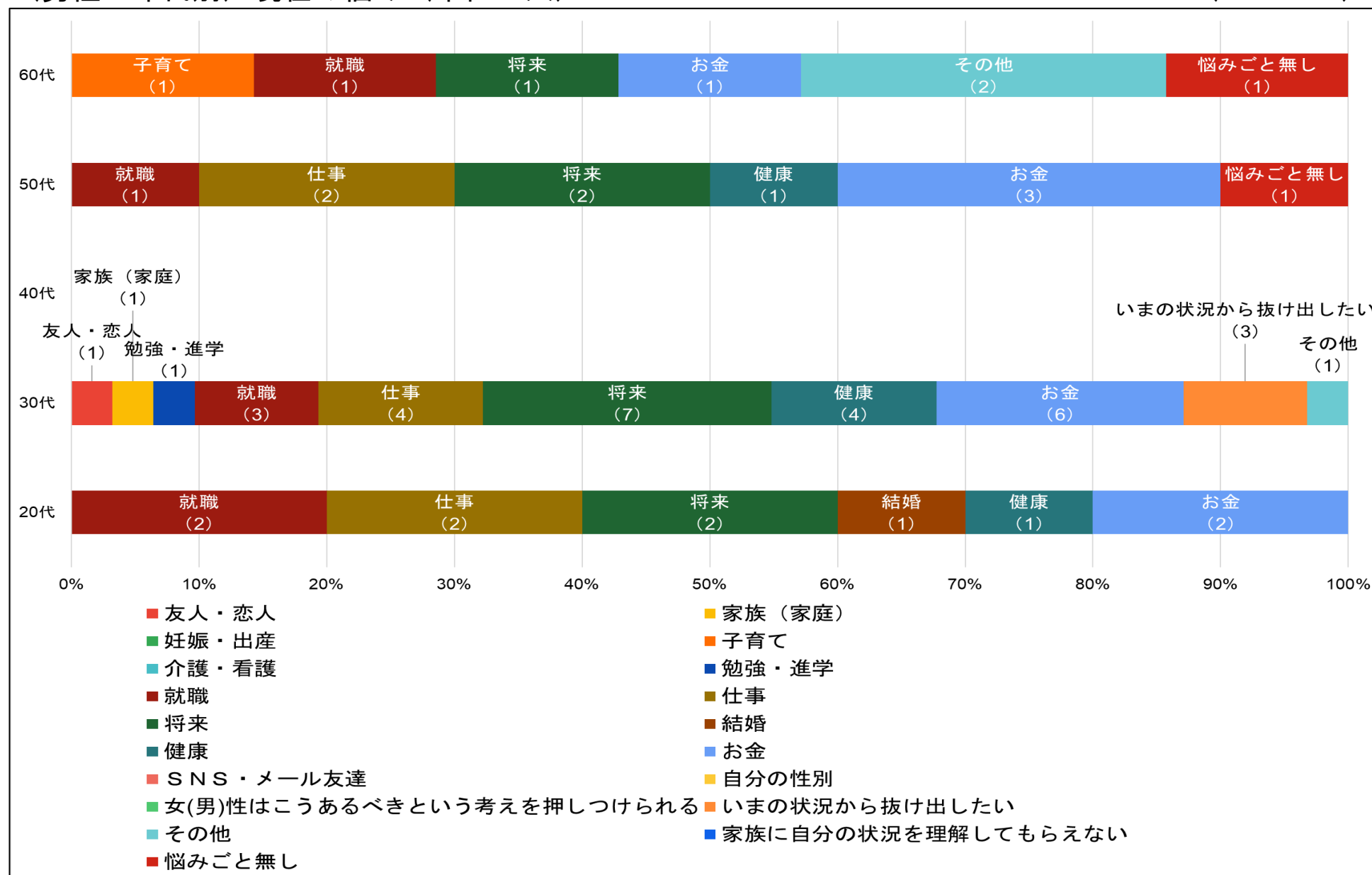


<ひきこもり状態にある者の「その他」>（抜粋）

「対等の扱いを一切しない。普通の会話すらしてくれない。常に一人ぼっちの感覚になる」、「精神病を患っているため、心のケアについて、今後のようにしていくか」、「子供の将来と自分達夫婦の今後」、「生き甲斐の無いまま、ただ年を取り生き続ける事が何よりも恐ろしい」など

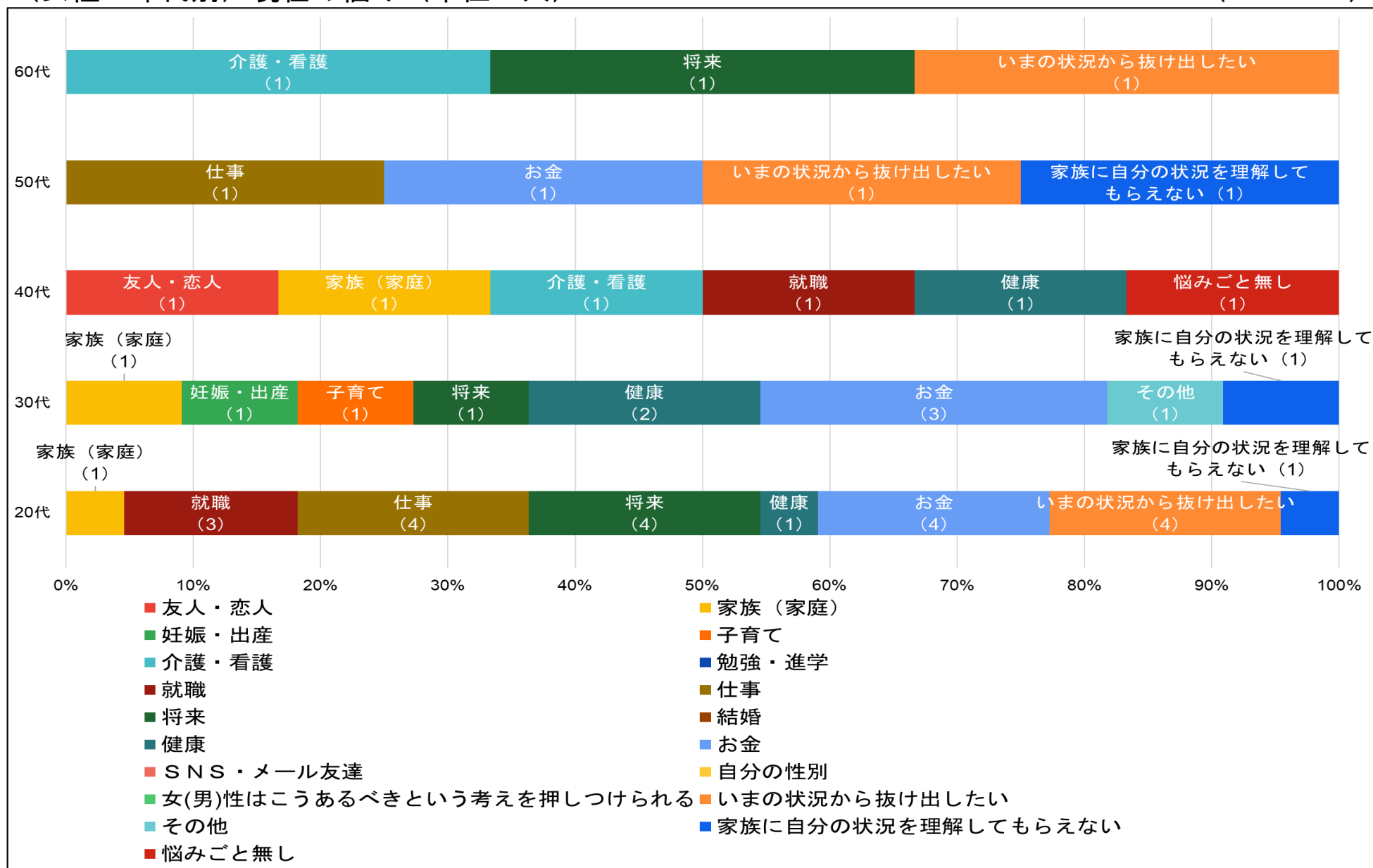
(男性・年代別) 現在の悩み (単位: 人)

(n = 17)



(女性・年代別) 現在の悩み (単位: 人)

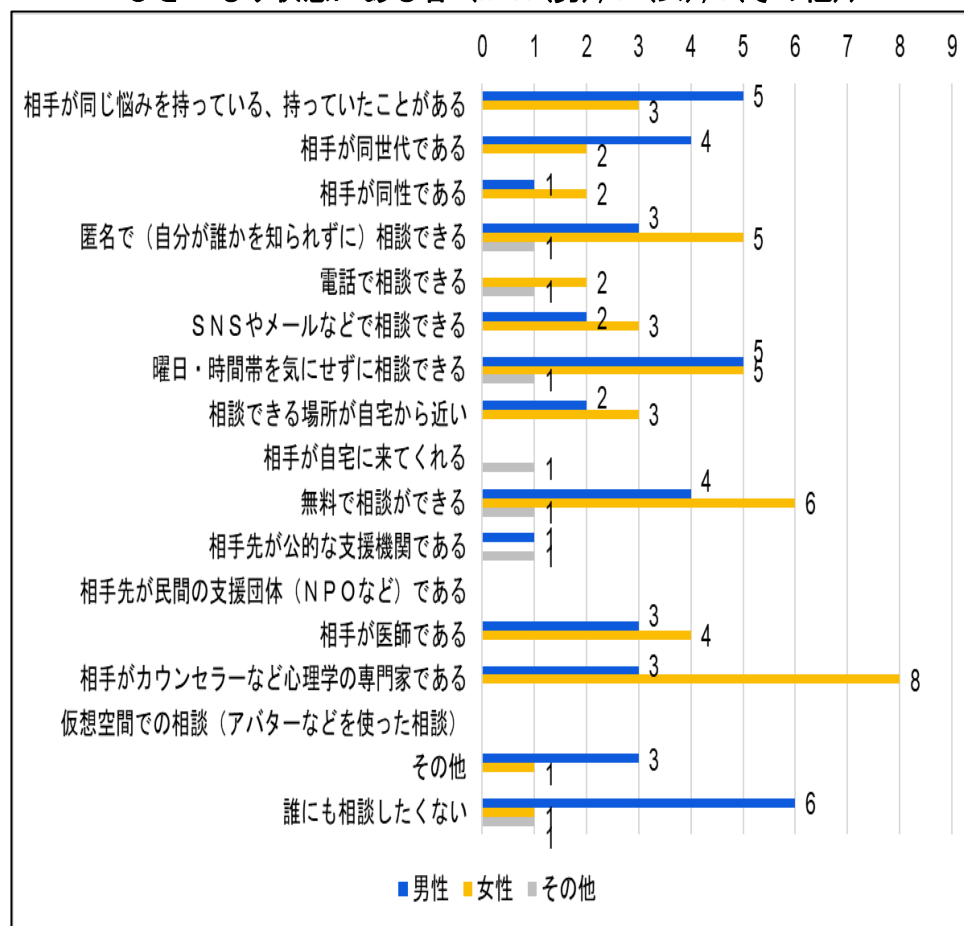
(n = 15)



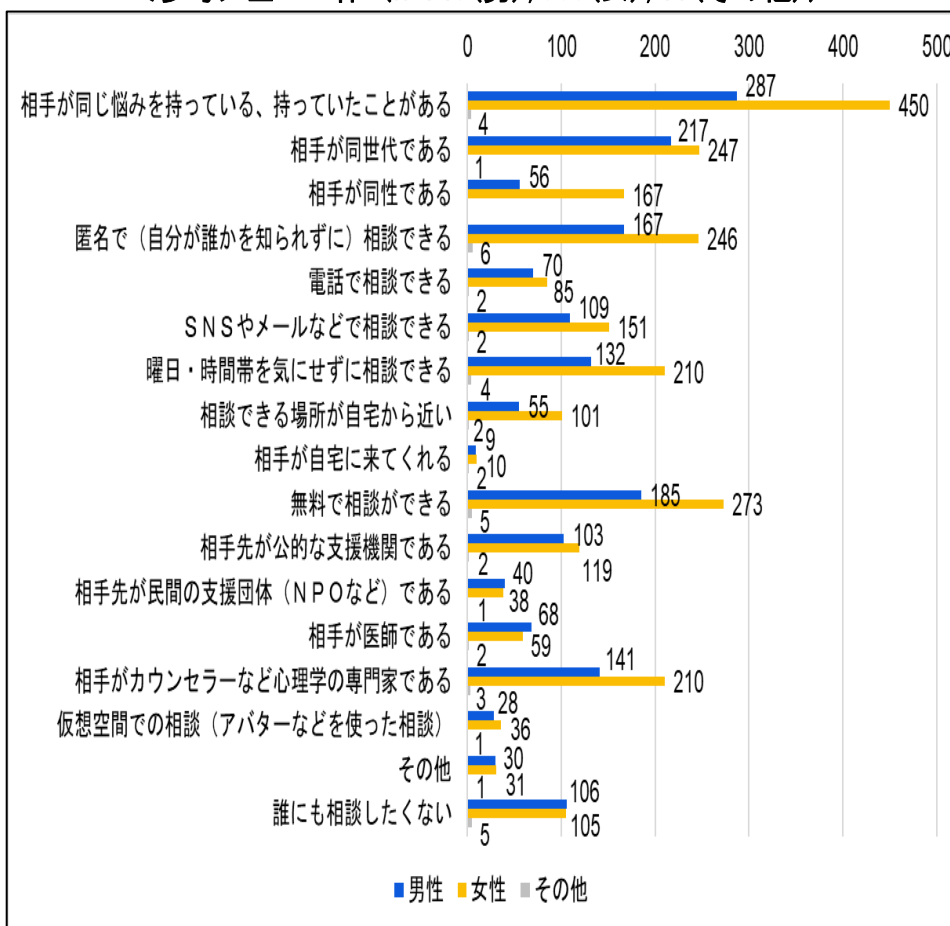
■ 悩みなどを相談する場合、どのような人や場所なら相談したいか ※複数回答（単位：人）

- ・ 男性では、「誰にも相談したくない」が最も多く、その理由は「相談しても解決しない」が50.0%と最も高かった。
- ・ 女性では、「カウンセラーなどの心理学の専門家」が多かった。
- ・ このほか、男女とも「無料」、「曜日や時間を気にせず相談できる」、「匿名で相談」、「相手が同じ悩みを持っている」が多かった。

ひきこもり状態にある者（n=17(男), 15(女), 1(その他)）



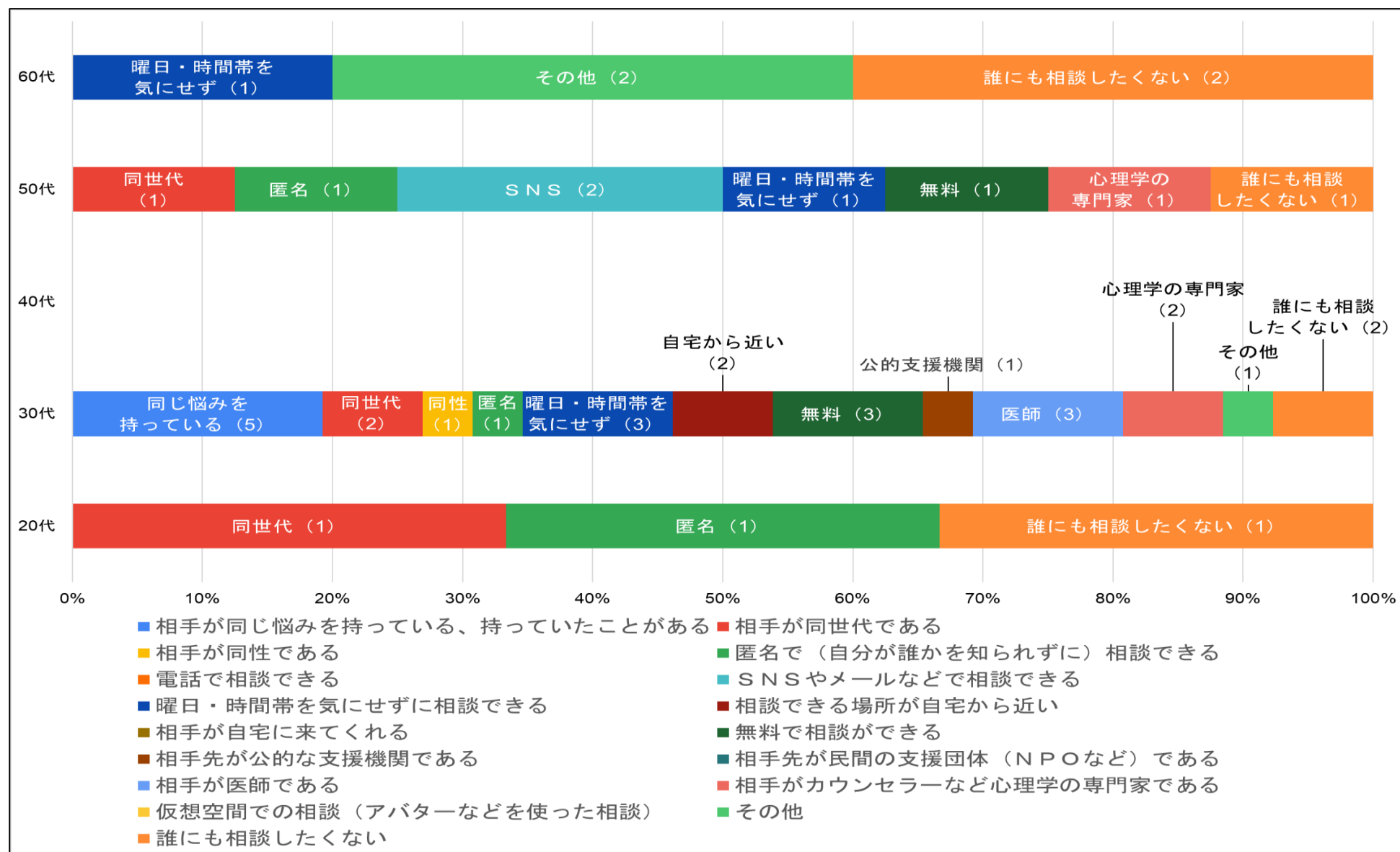
<参考> 全体（n=748(男), 906(女), 11(その他)）



<ひきこもり状態にある者の「その他」>（抜粋）

「それぞれの問題の対応に特化した専門家」、「家族」、「相談する内容により相手が異なる」など

(男性・年代別) 悩みなどを相談する場合、どのような人や場所なら相談したいか (単位: 人) (n = 17)



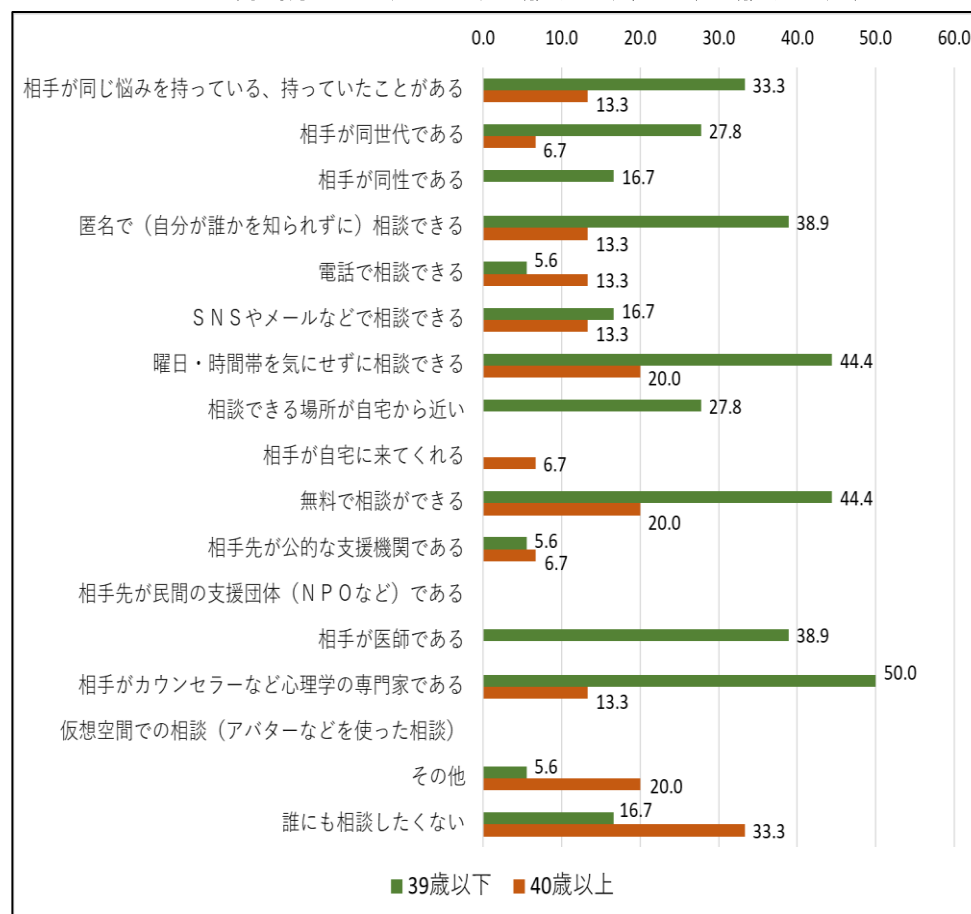
(女性・年代別) 悩みなどを相談する場合、どのような人や場所なら相談したいか (単位: 人) (n = 15)



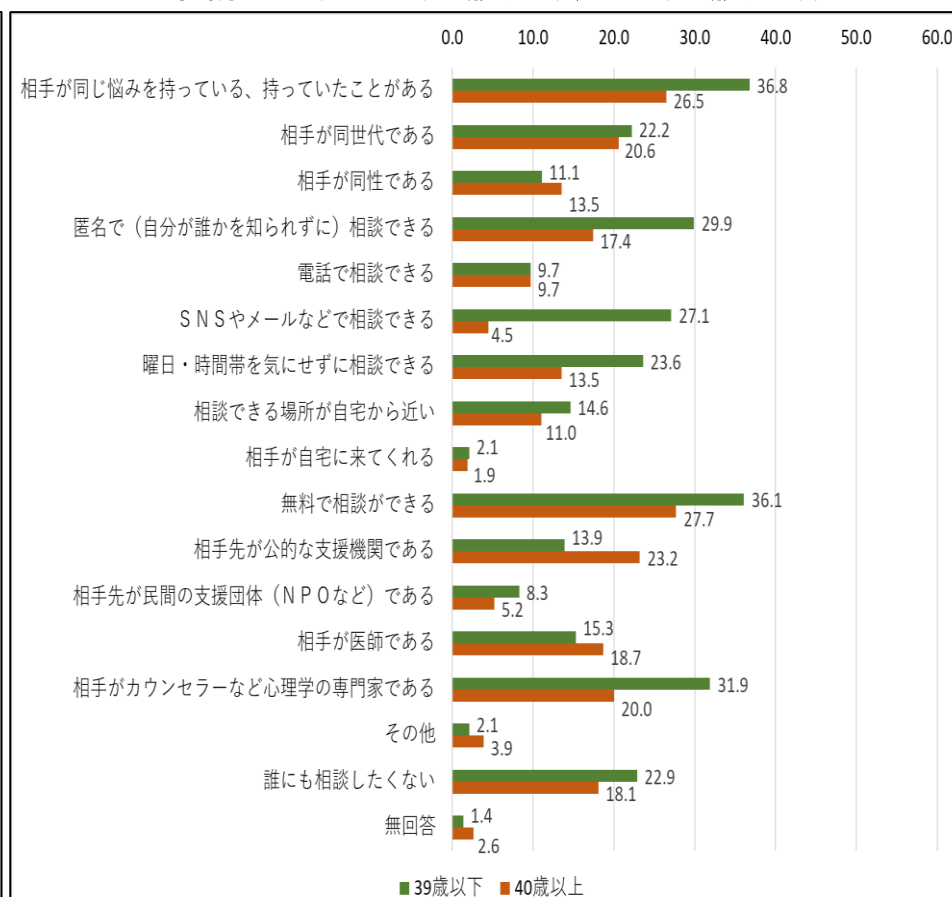
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: パーセント)

・ R 4 国調査と比べ、「医師」、「カウンセラーなどの心理学の専門家」と回答した割合が高かった。

<今回調査> (n=18 (39 歳以下)、15 (40 歳以上))



<R 4 国調査> (n=144 (39 歳以下)、155 (40 歳以上))

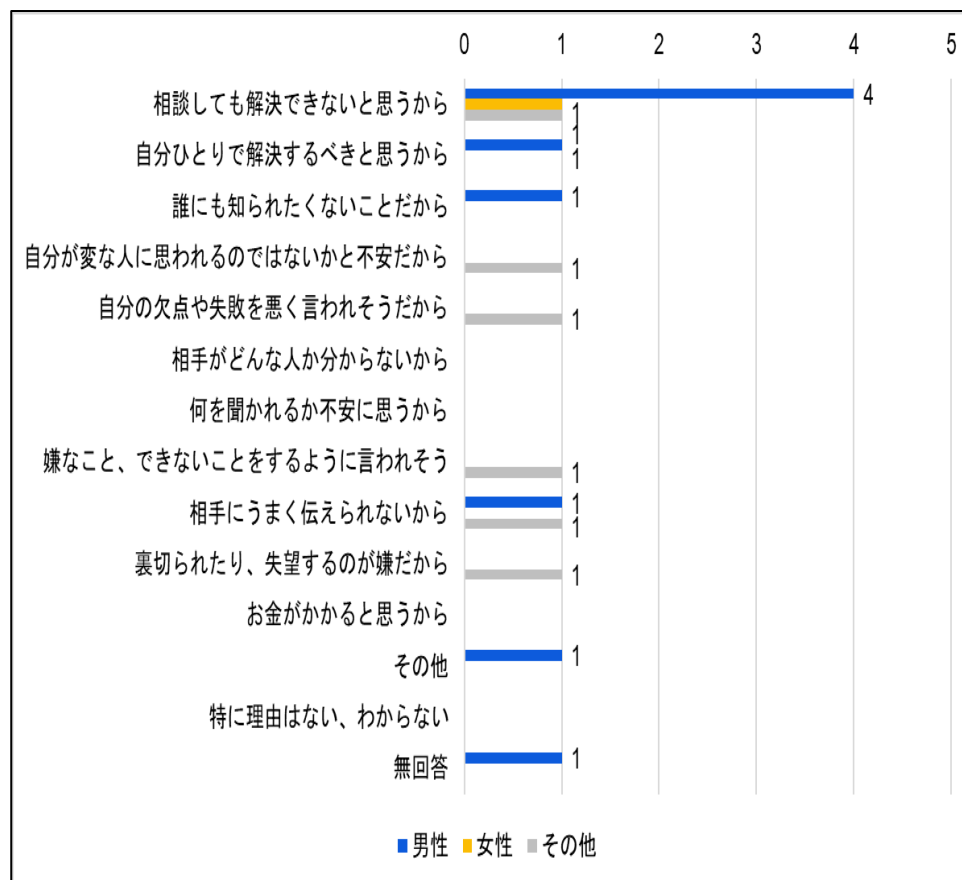


※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。
 ※今回調査での「仮想空間での相談（アバターなどを使った相談）」は、独自選択肢。
 ※今回調査に、無回答者なし。

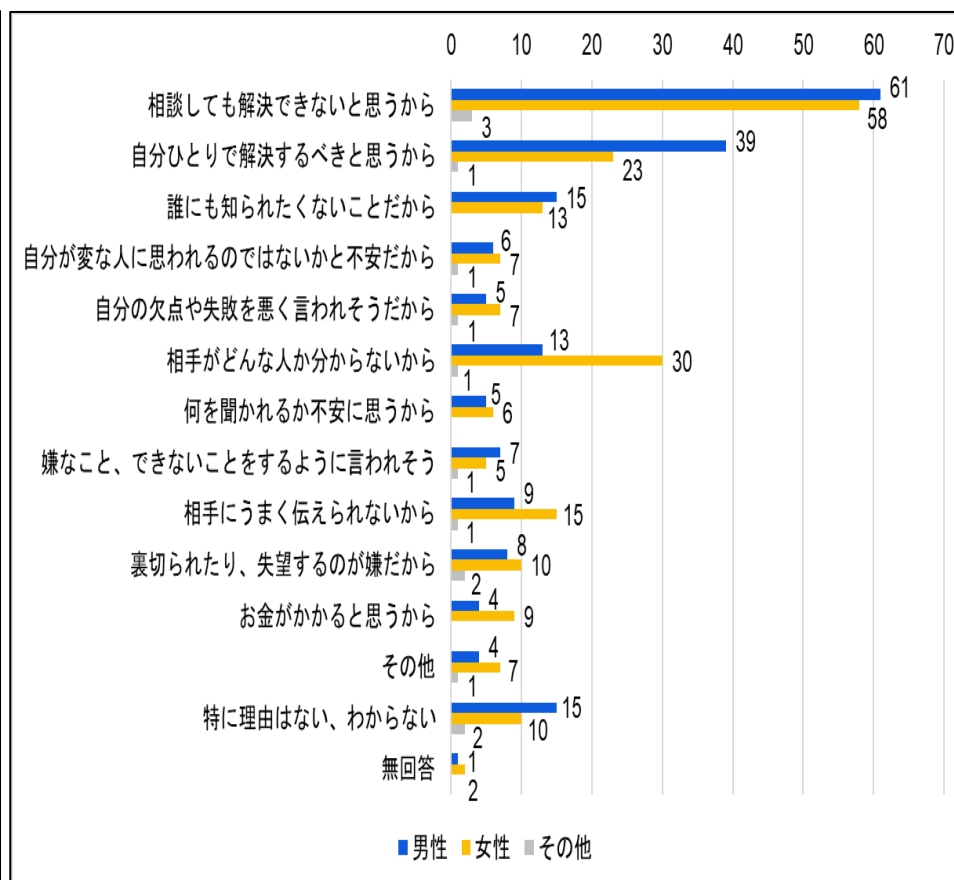
■ 「誰にも相談したくない」理由 ※複数回答（単位：人）

・「相談しても解決できないと思うから」が最も多かった。

ひきこもり状態にある者（n=6（男）, 1（女）, 1（その他））



<参考>全 体（n=106（男）, 105（女）, 5（その他））



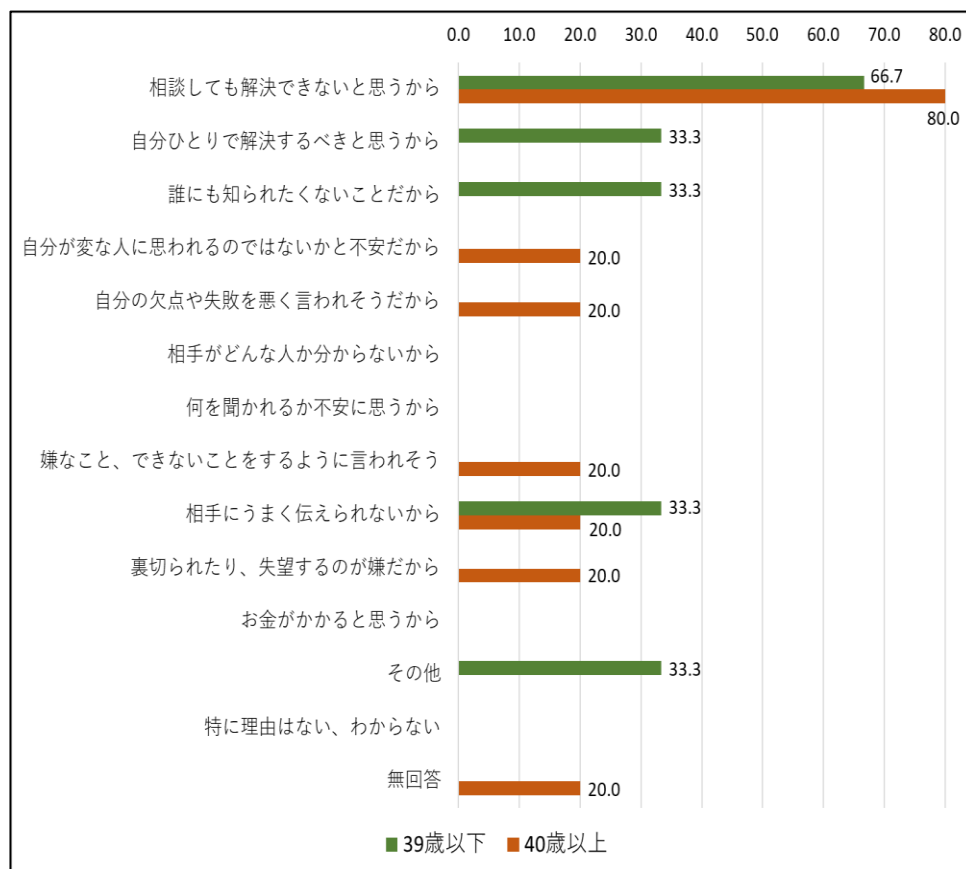
<ひきこもり状態にある者の「その他」>

「自分の中身をさらけ出すことに強い忌避感がある。理由はわからない」

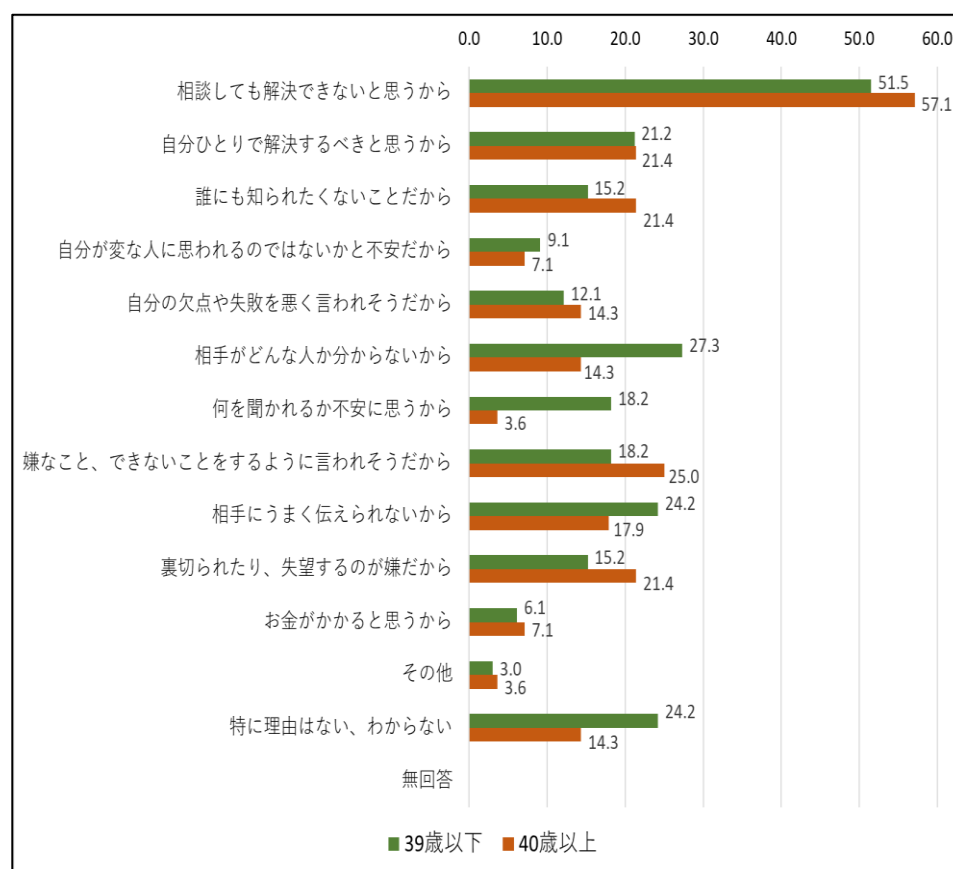
(参考) 他調査との比較 (年代層 (若年層・中高年齢層) 別の割合比較) (単位: パーセント)

- ・ R4国調査と同様に、「相談しても解決できないと思うから」の割合が最も高い傾向となった。

<今回調査> (n=3 (39歳以下)、5 (40歳以上))



<R4国調査> (n=33 (39歳以下)、28 (40歳以上))



※当該グラフは、各選択肢を選択した者が、全体数に占める割合を表している。